

横浜の川と海の生物

(第 13 報・河川編)

概要版



アユ



エビモ



ギンヤンマ



ビロウドラソウ

平成 24 (2012) 年 3 月

横浜市環境科学研究所

目次

1. 調査概要-----	1
図 1 調査地点-----	2
2. 調査結果（水系別まとめ）-----	3
図 2 横浜市内河川の水生生物による水質評価結果-----	14
3. 各水系における調査結果概要-----	15
4. 各区における結果-----	18
4.1 区別集計結果-----	18
4.2 各区における結果概要-----	24
青葉区で確認された水生生物-----	25
旭区で確認された水生生物-----	26
泉区で確認された水生生物-----	27
磯子区で確認された水生生物-----	28
金沢区で確認された水生生物-----	29
港南区で確認された水生生物-----	30
港北区で確認された水生生物-----	31
栄区で確認された水生生物-----	32
瀬谷区で確認された水生生物-----	33
都筑区で確認された水生生物-----	34
鶴見区で確認された水生生物-----	35
戸塚区で確認された水生生物-----	36
保土ヶ谷区で確認された水生生物-----	37
緑区で確認された水生生物-----	38
南区で確認された水生生物-----	39

表紙写真の説明

アユ <i>Plecoglossus altivelis altivelis</i> 大岡川水系大岡川 日野川合流点下 2011年7月29日	エビモ <i>Potamogeton crispus</i> 大岡川水系大岡川 日野川合流点下 2011年7月29日
ギンヤンマ <i>Anax parthenope julius</i> 境川水系境川 遊水地橋 2011年9月9日	ビロウドランソウ <i>Homoeothrix janthina</i> 鶴見川水系鶴見川 落合橋 2011年8月17日

1. 調査概要

横浜市は、市内を流れる河川の6水系（鶴見川、帷子川、大岡川、境川、宮川、侍従川）について3年に1度の頻度で、魚類、底生動物、水草、付着藻類、水質などの調査を実施し、生物の生息状況を調べるとともに、生物指標を用いて水質評価を行っています。近年、下水道の普及に伴い、横浜市内を流れる河川の水質はかなり改善されてきており、生息する水生生物も以前に比べると多様になってきています。

この概要版では、2011年に実施した調査結果をまとめました。

〔 調査内容 〕

横浜市内を流れる6水系41地点で、水生生物の調査を2011年7月から9月に行いました。調査対象とした水生生物は、魚類、底生動物（エビ、カニ、貝類、水生昆虫など）、水草、付着藻類（藍藻、珪藻、緑藻など）です。

〔 調査結果概要 〕

魚類は48種2品種の合計50種、底生動物は171種、水草は8種、付着藻類は125種が確認されました。このうちレッドリスト等掲載種は27種（魚類17種、底生動物7種、付着藻類3種）、外来種は32種（魚類12種、底生動物16種、水草4種）でした。

水生生物から水質を評価すると、41地点のうち「大変きれい」が19地点、「きれい」が14地点、「やや汚れている」が3地点、「汚れている」が2地点、「評価できない」が3地点でした。

横浜市内の河川の源流域～上流域は、アブラハヤやサワガニなど「大変きれい」の水質指標となる種が多く生息していて、水質環境は良好であると言えます。さらに中流～下流域についてもアユやメダカなど「きれい」の指標となる種が多く生息し、水質環境は良好であると言えます。ただし感潮域の調査地点では、指標となる川の生物が少なくて水質評価ができなかったところがありました。

レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種は、環境省の改訂レッドリスト（2007）（環境省RL）と神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006（神奈川県RDB）に掲載されている種としました。

貴重性の高い方から、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種などにカテゴリー分けされています。環境省と神奈川県では、カテゴリーの分け方に多少の違いがあります。

外来種

ここでいう外来種は、国外外来種（国外から持ち込まれた生物）、国内外来種（国内の他地域から持ち込まれた生物）、および品種を含みます。

法的な規制については、「特定外来生物による生態系等に関わる被害の防止に関する法律」（以下、「外来生物法」と省略）に基づき「特定外来生物」が指定され、飼育・栽培・保管・運搬等が禁止されています。そのほかに、規制が課せられるものではありませんが、生態系に悪影響を及ぼしうる種を「要注意外来生物」として、環境省がリストアップしています。



図1 調査地点（流域は概略）

2. 調査結果（水系別まとめ）

〔魚類〕

魚類は48種2品種の合計50種が確認されました。鶴見川水系・境川水系などの大きな河川で多くの種が確認されました。境川水系が37種で最も多く、次いで鶴見川水系の28種でした。

表1 確認された魚類

No.	科名	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
1	ウナギ科	ニホンウナギ				●		●
2	コイ科	コイ	●	●		●		
3		イロゴイ	●		●	●		
4		ギンブナ	●	●		●		
5		オイカワ	●	●	●	●		
6		カワムツ				●		
7		アブラハヤ	●		●	●		
8		タカハヤ			●			
-		アブラハヤ属			●			
9		マルタ	●					
10		モツゴ	●	●		●		
11		タモロコ	●			●		
12		カマツカ	●					
13	ドジョウ科	ドジョウ	●	●	●	●	●	
14		カラドジョウ	●					
15		シマドジョウ	●		●			
16		ホトケドジョウ	●	●	●	●		
17	ギギ科	ギバチ		●				
18	ナマズ科	ナマズ	●			●		
19	アユ科	アユ	●	●	●	●		
20	カダヤシ科	カダヤシ	●			●		
21		グッピー			●	●		
22	メダカ科	メダカ	●	●	●	●	●	
23		ヒメダカ				●		
24	コチ科	マゴチ				●		
25	スズキ科	スズキ	●		●			
26	シマイサキ科	コトヒキ	●					●
27		シマイサキ				●		
28	サンフィッシュ科	ブルーギル	●			●		
29		オオクチバス				●		
30	アジ科	ギンガメアジ				●		
31	タイ科	クロダイ				●		
32	ボラ科	ボラ	●	●	●	●	●	
33	ハゼ科	カワアナゴ				●		
34		チチブモドキ				●		
35		ボウズハゼ				●		
36		スミウキゴリ	●	●	●	●		●
37		ウキゴリ		●	●	●		
38		ニクハゼ			●			
39		ピリンゴ	●	●			●	●
40		マハゼ	●	●	●	●	●	●
41		アシシロハゼ				●		
42		アベハゼ	●				●	
43		ゴクラクハゼ		●		●		
44		シマヨシノボリ		●	●	●		
45		オオヨシノボリ				●		
46		トウヨシノボリ（偽橙色型）	●	●		●		
47		カワヨシノボリ	●					
48		ヌマチチブ	●	●	●	●		
49	チチブ					●	●	
50	フグ科	クサフグ				●	●	
種数			28	18	18	37	8	6
調査地点数（計41地点）			12	4	7	13	2	3

※大岡川に生息するアブラハヤとタカハヤの幼魚は区別が困難なので、アブラハヤ属としています。そのため確認種としてのアブラハヤ属は、種類数に加えていません。

①レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種は17種でした。水系別には境川水系が12種と最も多く、次いで鶴見川の9種でした。相模湾に流入する境川水系は、レッドリスト等掲載種の中でカワアナゴやボウズハゼなどの回遊性の種類が多く確認されました。

横浜市内では、タカハヤとギバチは国内外来種であり、国内他地域からの放流由来の個体であると考えられます。またコイは放流由来の個体が多くを占め、メダカも放流由来の個体の割合が高いと考えられます。

表2 魚類レッドリスト等掲載種

環境省 RL	神奈川県 RDB	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川	備考
絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類	ホトケドジョウ	●	●	●	●			
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	ギバチ		●					国内外来種
		メダカ	●	●	●	●	●		放流由来の個体を含む可能性
情報不足	-	ニホンウナギ				●		●	
-	絶滅危惧ⅠB類	タカハヤ			●				国内外来種
		カワアナゴ				●			
	絶滅危惧Ⅱ類	マルタ	●						
		準絶滅危惧	アブラハヤ	●		●	●		
	カマツカ		●						
	シマドジョウ		●		●				
	ボウズハゼ					●			
	スミウキゴリ		●	●	●	●		●	
	ゴクラクハゼ			●		●			
	オオヨシノボリ					●			
	注目種	ナマズ	●			●			
	情報不足	コイ	●	●		●			放流由来の個体を含む可能性
		チヂブモドキ				●			
種数			9	6	6	12	1	2	

注) レッドリスト等掲載種のカテゴリーは表17参照のこと。

コラム1 放流で生息、国内外来種



ギバチ(帷子川 鶴舞橋)

ギバチは昭和10年に帷子川水系での生息情報がありますが、昭和49年の報告では帷子川等に「ほとんど魚はいない」とされています。また帷子川は水質が非常に悪くなった時期があり、ギバチが生息できるような環境ではありませんでした。横浜市環境科学研究所が行ってきた源流部を含めた調査でも、長期間確認されませんでした。

それが2007年には市民ボランティアグループにより確認され、2008年には水質事故で死亡したギバチの確認がありました。

これらのことから帷子川ではギバチは一度絶滅したものの、近年水質が改善されて生息が可能となった後に放流されたため、現在は生息するようになったと考えられます。

②外来種

外来種は12種で、いずれも純淡水魚（一生を川で生活する魚）でした。これは確認種50種の約1/4、純淡水魚24種の1/2に相当します。つまり純淡水魚のうち半数が人為的に持ち込まれていることとなります。

このうち海外から持ち込まれた外来種（国外外来種）としては、外来生物法で「特定外来生物」に指定されている種が3種、規制対象外の「要注意外来生物」は2種です。そのほかに国内他地域からの移入種（国内外来種）が5種、観賞用に改良された品種は2種確認されました。

水系別には境川水系が8種と最も多く、次いで鶴見川水系が6種でした。

表3 魚類の外来種（国外外来種・国内外来種・品種）

カテゴリー等	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
国外外来種 (特定外来生物)	カダヤシ	●			●		
	ブルーギル	●			●		
	オオクチバス				●		
国外外来種 (要注意外来生物)	カラドジョウ	●					
	グッピー			●	●		
国内外来種	カワムツ				●		
	タカハヤ			●			
	タモロコ	●			●		
	ギバチ		●				
	カワヨシノボリ	●					
品種	イロゴイ	●		●	●		
	ヒメダカ				●		
種数		6	1	3	8	0	0

注) 外来種のカテゴリー等は表18参照のこと

コラム2 在来種と品種(観賞用品種)



メダカ(帷子川 横浜新道下)

メダカは調査した41地点中、約1/3の16地点で確認されました。メダカは多くの地点から確認されていますが、放流が頻繁に行われていることから、交雑して在来個体群とは言えない可能性があります。

確認場所: 鶴見川、帷子川、大岡川、境川、宮川

ヒメダカはメダカの観賞用の品種です。横浜市では国内外来種と位置づけています。確認場所: 境川



コイ(境川 新屋敷橋)

コイは、昭和59年度(1984年度)より各河川で放流され、寿命も長いと増えすぎの問題が発生しています。在来個体がどの程度生息しているどうかは不明です。河川に生息している個体の多くは養殖コイで、放流由来であると考えられます。確認場所: 鶴見川、帷子川、境川

イロゴイは、コイの観賞用の品種です。横浜市では外来種と位置づけています。

確認場所: 鶴見川、大岡川、境川

コラム3 よく似ているけど違う！在来種と外来種

その① アブラハヤとタカハヤ



アブラハヤ(大岡川 氷取沢)

在来の純淡水魚です。横浜市では、源・上流域～中流域にかけて分布しています。タカハヤと比べると、尾柄(尾びれの前の部分)が細いなどの特徴があります。確認場所:鶴見川、大岡川、境川



タカハヤ(大岡川 氷取沢)

自然分布域は神奈川県西部以西ですが、過去に大岡川で放流された記録があります。在来の近縁種であるアブラハヤを生態的に圧迫している可能性があるほか、アブラハヤと交雑し遺伝的な攪乱を起こしている可能性があります。確認場所:大岡川

その② ドジョウとカラドジョウ



ドジョウ(大岡川 高橋)

在来の純淡水魚です。横浜市では、源・上流域から中・下流域で広く確認されています。確認場所:鶴見川、帷子川、大岡川、境川、宮川



カラドジョウ(鶴見川 山田谷戸)

中国または韓国から養殖ドジョウに混入して移入してきたとされています。ドジョウによく似て区別は難しいですが、ヒゲが長いなどの特徴があります。確認場所:鶴見川

その③ トウヨシノボリ(偽橙色型)とカワヨシノボリ



トウヨシノボリ(偽橙色型)(境川 遊水池橋)

在来の通し回遊魚です。雄の第一背びれがあまり伸長しないなどの特徴があります。

確認場所:鶴見川、帷子川、境川



カワヨシノボリ(鶴見川 神明橋)

純淡水魚で、自然分布域は富士川以南です。

胸びれの軟条数が少ない特徴があり、他のヨシノボリ類に比べて、胸びれが透けて見えます。確認場所:鶴見川

純淡水魚:一生を淡水で過ごす魚、通し回遊魚:生活環のある時期に定期的に川と海を回遊する魚

【 底生動物 】

底生動物は171種が確認されました。流程が長くて調査地点が多い境川水系と鶴見川水系が99種と多く、次いで大岡川水系が85種でした。

表4-1 確認された底生動物（水系別）

No.	綱名	目名	科名	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	待従川
1	普通海綿綱	サラカイメン目	ダンスイカイメン科	ダンスイカイメン科	●		●	●		
2	有針綱	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	マミズヒモムシ科			●			
3	渦虫綱	ウズムシ目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ			●		●	
4				アメリカツノウズムシ	●	●	●			
5				アメリカナミウズムシ	●					
6		テムノケファーラ目	ヤドリフタツノムシ科	エビヤドリツノムシ	●					
7	腹足綱	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ						●
8		ニナ目	タニシ科	ヒメタニシ	●					
9			ウミニナ科	ホソウミニナ						●
10			カワニナ科	カワニナ	●	●	●	●		●
11			ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ					●	●
12			ミズツボ科	コモチカワツボ			●		●	
13			カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサ			●			
14		モノアラガイ目	カワコザラガイ科	カワコザラガイ	●					
15			モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	●	●	●	●	●	
16			モノアラガイ科	モノアラガイ科	●	●	●	●	●	
17			サカマキガイ科	サカマキガイ	●	●	●	●	●	●
18			ヒラマキガイ科	インドヒラマキガイ				●		
19	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリガイ			●			●
20		カキ目	イタボガキ科	マガキ					●	
21		マルスダレガイ目	カワホトギス科	イガイタマシ	●		●			
22			シジミ科	タイワンシジミ	●	●	●	●		
23				ヤマトシジミ	●					
24				シジミ属(若齢)			●	●		
25			マメシジミ科	マメシジミ属	●		●	●	●	
26	多毛綱	サシバゴカイ目	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	●		●		●	●
27			イトゴカイ科	イトゴカイ	●		●		●	●
28	貧毛綱	ナガミミズ目	イトミミズ科	エラムミズ	●	●				
29				ミズミズ亜科	●	●		●		
30				イトミミズ亜科	●	●	●	●	●	●
31				ミズミズ	●	●	●	●		
32	蛭綱	ウオビル目	グロシフォニ科	ハバヒロビル	●					
33				ヌマビル	●		●			
34		イシビル目	イシビル科	シマイシビル	●	●	●	●		
35				ピロウドイシビル	●	●	●	●		
36		アゴビル目	ヒルト科	ウマビル				●		
37	顎脚綱	フジツボ目	フジツボ科	タテジマフジツボ			●		●	●
38				アメリカフジツボ			●		●	●
39	軟甲綱	ワラジムシ目	タナイス科	キスイタナイス	●				●	●
40			コツブムシ科	イソツブムシ属					●	
41			ミズムシ科	ミズムシ	●	●	●	●	●	●
42		ヨコエビ目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ属					●	
43			マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	●	●	●	●		
44			メリタヨコエビ科	メリタヨコエビ属	●				●	
45		エビ目	ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ				●		
46				トゲナシヌマエビ					●	
47				ミソレヌマエビ	●	●		●		
48				カワリヌマエビ属	●	●		●		
49				ヌマエビ						●
50				ヌカエビ	●	●	●	●	●	
51			テナガエビ科	ミナミテナガエビ				●		
52				ヒラテテナガエビ				●		●
53				テナガエビ	●	●	●	●		
54				ユビナガスジエビ	●				●	●
55				スジエビ	●	●		●		
56				スジエビモドキ				●		
57			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	●	●	●	●	●	●
58			ワタリガニ科	チチュウカイミドリガニ					●	●
59			イワガニ科	クロベンケイガニ	●		●	●	●	●
60				モクスガニ	●	●	●	●	●	
61			サワガニ科	サワガニ	●		●	●	●	●
62	昆虫綱	カゲロウ目	コカゲロウ科	ミツオミジカオフタバコカゲロウ	●	●	●	●		
63				ヨシノコカゲロウ			●			
64				サホコカゲロウ	●	●	●	●		
65				フタモンコカゲロウ	●	●	●	●		
66				シロハラコカゲロウ	●	●	●	●	●	●
67				Jコカゲロウ				●		
68				フタバカゲロウ属	●			●		
69				ウスイロフトヒゲコカゲロウ	●	●		●		
70				Dコカゲロウ				●		
71				ヒメウスバコカゲロウ属			●	●		
72				ウデマガリコカゲロウ	●	●	●	●		
73			ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	●			●		
74			トビイロカゲロウ科	ウエストントビイロカゲロウ						●
75			モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ			●	●		●
76			ヒメシロカゲロウ科	ヒメシロカゲロウ属			●	●		
77		トンボ目	イトトンボ科	クロイトトンボ属				●		
78				アジアイトンボ	●			●		
79				アオモンイトトンボ	●					
80			カワトンボ科	ハグロトンボ	●	●	●	●		
81				アサヒナカワトンボ			●	●	●	●
82			サナエトンボ科	ヤマサナエ	●		●	●	●	
83				ダビドサナエ			●			●

表 4-2 確認された底生動物（水系別）

No.	綱名	目名	科名	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川		
84	昆虫綱	トンボ目	サナエトンボ科	コオニヤンマ	●		●	●				
85			ヤンマ科		クロスジギンヤンマ	●			●			
86					ギンヤンマ	●			●			
87					コシボソヤンマ			●	●			
88					ミルンヤンマ			●	●	●	●	
89				オニヤンマ科	オニヤンマ	●	●	●	●	●	●	
90				エフトンボ科	コヤマトンボ	●		●	●			
91				トンボ科	シオカラトンボ	●			●			
92					オオシオカラトンボ			●				
93					コシアキトンボ				●			
94				カワゲラ目	オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属			●	●	●	
95						オナシカワゲラ属	●	●	●	●	●	
96				カワゲラ科	ヤマトフタツメカワゲラ			●	●	●		
97				カメムシ目	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ			●			
98					アメンボ科	オオアメンボ			●	●		
99							アメンボ	●	●	●	●	●
100							コセアカアメンボ					●
101			シマアメンボ		●	●	●	●	●	●		
102		タイコウチ科	タイコウチ		●							
103		マツモムシ科	コマツモムシ		●							
104		ミズムシ科	コムズムシ属	●								
105		ヘビトンボ目	センブリ科	センブリ属					●			
106			ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ		●	●	●	●	●		
107			ヘビトンボ			●	●					
108		トビケラ目	カウトビケラ科	コタニガウトビケラ属					●			
109			シマトビケラ科		コガタシマトビケラ	●	●	●	●	●		
110					ナミコガタシマトビケラ			●	●	●	●	
111				ウルマーシマトビケラ	●	●	●	●	●	●		
112			クダトビケラ科	クダトビケラ属	●	●	●	●	●	●		
113			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	●	●	●	●	●	●		
114			カクツツビケラ科	カクツツビケラ属	●		●		●	●		
115			ニンキョウトビケラ科	ニンキョウトビケラ				●				
116			ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ属	●	●	●					
117			ケトビケラ科	グマゴトビケラ属					●			
118			コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ	●						
119				チビゲンゴロウ	●							
120				モンキマメゲンゴロウ	●		●			●		
121		ガムシ科		シジミガムシ属	●							
122					ガムシ科(幼虫)	●	●					
123		ホタル科		ゲンジボタル(幼虫)	●			●	●	●		
124		ヒラタドロムシ科		クシヒゲマルヒラタドロムシ				●				
125		ヒメドロムシ科		ヒメドロムシ科(幼虫)			●					
126		ハエ目		ガガンボ科	ヒメガガンボ属	●	●	●	●	●	●	
127					Dicranota 属			●				
128				ヒゲナガガガンボ属			●	●				
129				Limnophila 属				●		●		
130				Yamatotipula 亜属	●	●	●	●	●	●		
131				ガガンボ属	●			●	●	●		
132				ガガンボ科		●				●		
133			ホソカ科	ホソカ属			●		●			
134			カ科	カ科	●							
135			チョウバエ科	チョウバエ属			●	●				
136					オオケチョウバエ属						●	
137			ブユ科	ブユ属		●						
138			ヌカカ科	Bezzia 属			●					
139			ユスリカ科	ボカシヌマユスリカ属		●		●				
140					コヒメユスリカ属						●	
141					カユスリカ属		●					
142					カスリモンユスリカ属	●						
143					ヤマトヒメユスリカ属	●	●	●	●	●	●	
144					ケブカエリユスリカ属	●	●	●	●	●	●	
145					ハダカエリユスリカ属	●	●	●	●	●	●	
146					ツヤユスリカ属	●	●	●	●	●	●	
147					テンマクエリユスリカ属	●						
148					エラブユスリカ属			●				
149					キリカキケバネユスリカ属			●			●	
150					エリユスリカ属	●	●					
151					ニセナガレツヤユスリカ属	●	●	●	●			
152					ニセケバネエリユスリカ属		●	●	●		●	
153				クロツヤエリユスリカ属		●						
154				ナガレツヤユスリカ属	●	●	●	●				
155				ピロウドエリユスリカ属		●						
156				ヌカユスリカ属	●	●						
157				セスジユスリカ	●	●				●		
158				ユスリカ属	●	●		●		●		
159				カマガタユスリカ属	●	●	●					
160				ホソユスリカ属	●			●		●		
161				セボリユスリカ属	●	●		●				
162				ナガスネユスリカ属				●		●		
163				ツヤムネユスリカ属			●			●		
164				カワリユスリカ属	●	●	●	●		●		
165				ハモンユスリカ属	●	●	●	●	●	●		
166			ナガレユスリカ属	●	●	●						
167			ハムグリユスリカ属				●					
168			アシマダラユスリカ属	●	●				●			
169			ヒゲユスリカ属	●	●	●	●					
170		ミズアブ科	ミズアブ科	●								
171		アンナガバエ科	アンナガバエ科				●					
種数					99	64	85	99	48	56		
調査地点数(計41地点)					12	4	7	13	2	3		

① レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種は7種で、貝類が1種、トンボ類が5種とアメンボ類1種でした。

表5 確認されたレッドリスト等掲載種

環境省 RL	神奈川県 RDB	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
準絶滅危惧	—	ヤマトシジミ	●					
—	準絶滅危惧	コヤマトンボ	●		●	●		
		オオアメンボ			●	●		
	要注意	ハグロトンボ	●	●	●	●		
		ヤマサナエ	●		●	●	●	
		コシボソヤンマ			●	●		
		ミルンヤンマ			●	●	●	●
種数			4	1	6	6	2	1

注) ハグロトンボは成虫の記録を含む。

注) レッドリスト等掲載種のカテゴリーは表17参照のこと

そのほかに水辺の目標種※であるゲンジボタルは、6地点で確認されました。横浜市内でも、源流域ではゲンジボタルを見ることが出来ます。

表6 ゲンジボタル（幼虫）確認地点

水系	地点名
鶴見川	寺家川の山田谷戸
	梅田川の神明橋
境川	舞岡川の宮根橋上流
	稲荷川の杉之木橋上流
宮川	清水橋上流
侍従川	金の橋上流（左）



ゲンジボタル幼虫（梅田川 神明橋）

② 外来種

外来種は16種（外来種の可能性を含む）が確認されました。ウズムシ類（プラナリアの仲間）が2種、貝類が8種、エビ・カニ類が4種、フジツボ類が2種でした。

このうち国外外来種は15種（国外外来種の可能性を含む）でした。外来生物法で「特定外来生物」に指定されている種はありませんが、規制対象外の「要注意外来生物」が6種確認されました。

これらの種のうち、コウロエンカワヒバリガイ、イガイダマシ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、チチュウカイミドリガニの5種は、汽水～海水に生息する種です。淡水に生息する種では、最近国内で分布を拡大しているコモチカワツボやフロリダマミズヨコエビなどが確認されました。また国外外来種と考えられるカワリヌマエビ属の一種が確認されました。

※横浜市が平成18年に策定した「横浜市水と緑の基本計画」にある施策の一つ、「水循環の再生」でホタルの舞う環境づくりが挙げられているように、ホタルは施策推進のための目標種として、しばしば使われます。

表7 確認された外来種

カテゴリー等	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
国外外来種 (要注意外来生物)	コウロエンカワヒバリガイ			●		●	●
	イガイダマシ	●		●			
	タイワンシジミ	●	●	●	●		
	タテジマフジツボ			●		●	●
	アメリカザリガニ	●	●	●	●	●	
	チチュウカイミドリガニ					●	●
国外外来種	アメリカツノウズムシ	●	●	●	●		
	アメリカナミウズムシ	●					
	コモチカワツボ			●		●	
	サカマキガイ	●	●	●	●	●	●
	インドヒラマキガイ				●		
	アメリカフジツボ			●		●	●
	フロリダマミズヨコエビ	●	●	●	●		
国外外来種?	モノアラガイ科	●	●	●	●		
	カワリヌマエビ属の一種	●	●		●	●	
国内外来種	ウスイロオカチグサ			●			
種数		9	7	12	8	8	5

注) 外来種のカテゴリー等は表 18 参照のこと

〔水草〕

水草は8種が確認されました。在来種は4種確認されましたが、レッドリスト等掲載種はありませんでした。また外来種は4種確認され、いずれも国外外来種でした。このうちオオフサモは外来生物法で「特定外来生物」に指定されています。その他に規制対象外の「要注意外来生物」が3種確認されました。「要注意外来生物」のオランダガラシは一般的にはクレソンと呼ばれているものです。

表8 確認された水草とカテゴリー等

カテゴリー等	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
国外外来種(特定外来生物)	オオフサモ	●					
国外外来種 (要注意外来生物)	オランダガラシ	●	●	●	●	●	
	オオカナダモ	●	●		●		
	コカナダモ	●		●			
在来種	ホザキノフサモ	●			●		
	エビモ			●			
	ヤナギモ	●					
	アイノコイトモ	●		●	●		
種数		7	2	4	4	1	0

注) 外来種のカテゴリー等は表 18 参照のこと

[付着藻類]

付着藻類は125種が確認され、流程が長くて調査地点が多い河川で多くの種が確認されました。境川水系が78種と最も多く、次いで鶴見川水系が75種、大岡川水系が59種でした。

表9-1 確認された付着藻類（水系別）

No.	綱名	属名・和名	学名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
1	藍藻綱	コンボウランソウ属	<i>Chamaesiphon</i> sp.	●	●				
2		エントフィザリス属	<i>Entophysalis</i> sp.	●					
3		ピロウドラソウ	<i>Homoeothrix janthina</i>	●	●	●	●		●
4		ピロウドラソウ属	<i>Homoeothrix</i> sp.	●					
5		リングビア属	<i>Lyngbya</i> sp.			●		●	
6		ユレモ属	<i>Oscillatoria</i> sp.			●			
7		サヤユレモ属	<i>Phormidium</i> sp.	●		●	●		
8		クセノコックス属	<i>Xenococcus</i> sp.			●			
9	珪藻綱	マガリケイソウ属	<i>Achnanthes delicatula</i>	●					●
10		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes exigua</i>	●			●		
11		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes japonica</i>	●	●		●		
12		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes kuwaitensis</i>				●	●	●
13		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes lanceolata</i>	●	●	●	●		●
14		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes minutissima</i>	●	●	●	●	●	●
15		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes subhudsonis</i>		●				
16		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes</i> sp.			●			●
17		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora coffeaeformis</i>	●		●	●	●	●
18		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora fontinalis</i>						●
19		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora libyca</i>				●	●	
20		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora montana</i>	●	●	●	●		
21		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora pediculus</i>	●	●	●	●		●
22		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora strigosa</i>	●	●	●	●	●	●
23		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora veneta</i>	●		●	●		
24		ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora</i> spp.			●			
25		アウラコセイラ属	<i>Aulacoseira ambigua</i>		●		●		
26		イカダケイソウ属	<i>Bacillaria paradoxa</i>			●	●		
27		スジフネケイソウ属	<i>Caloneis bacillum</i>	●					
28		コバンケイソウ属	<i>Cocconeis pediculus</i>	●		●		●	●
29		コバンケイソウ属	<i>Cocconeis placentula</i> var.	●	●	●	●	●	●
30		コバンケイソウ属	<i>Cocconeis scutellum</i>						●
31		コアミケイソウ属	<i>Coscinodiscus</i> spp.			●	●	●	●
32		ヒメマルケイソウ属	<i>Cyclotella meneghiniana</i>	●		●			
33		ヒメマルケイソウ属	<i>Cyclotella</i> spp.			●	●		●
34		クチビルケイソウ属	<i>Cymbella minuta</i>		●				
35		クチビルケイソウ属	<i>Cymbella prostrata</i>	●			●		
36		クチビルケイソウ属	<i>Cymbella sinuata</i>		●	●	●		
37		クチビルケイソウ属	<i>Cymbella turgidula</i>				●		
38		ナカケイソウ属	<i>Diploneis</i> sp.				●		●
39		エントモネイス属	<i>Entomoneis paludosa</i>				●		
40		クシケイソウ属	<i>Eunotia minor</i>		●				
41		クシケイソウ属	<i>Eunotia</i> sp.		●				
42		オビケイソウ属	<i>Fragilaria capucina</i>		●				
43		オビケイソウ属	<i>Fragilaria crotonensis</i>		●				
44		オビケイソウ属	<i>Fragilaria fasciculata</i>	●	●	●	●	●	●
45		オビケイソウ属	<i>Fragilaria pinnata</i>				●		
46	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema angustatum</i>			●				
47	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema angustum</i>	●	●	●	●	●		
48	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema clevei</i>	●	●					
49	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema minutum</i>			●				
50	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema parvulum</i>	●	●	●	●	●	●	
51	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema parvulum</i> var. <i>lagenula</i>	●		●	●			
52	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema pseudoaugur</i>	●			●			
53	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema truncatum</i>			●				
54	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema</i> spp.	●			●			
55	ニセメガネケイソウ属	<i>Gyrosigma</i> sp.				●			
56	ヒドロセラ属	<i>Hydrosera triquetra</i>	●						
57	チャッツケイソウ属	<i>Melosira nummuloides</i>			●	●	●	●	
58	チャッツケイソウ属	<i>Melosira varians</i>	●		●	●		●	
59	フネケイソウ属	<i>Navicula atomus</i>	●			●			
60	フネケイソウ属	<i>Navicula cincta</i>				●			
61	フネケイソウ属	<i>Navicula confervacea</i>	●		●	●			

表9-2 確認された付着藻類（水系別）

No.	綱名	属名・和名	学名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
62	珪藻綱	フネケイソウ属	<i>Navicula cryptocephala</i>	●	●	●	●	●	●
63		フネケイソウ属	<i>Navicula cryptotenella</i>	●	●	●	●		●
64		フネケイソウ属	<i>Navicula decussis</i>				●		
65		フネケイソウ属	<i>Navicula aff. cancellata</i>					●	●
66		フネケイソウ属	<i>Navicula goeppertiana</i>	●			●		
67		フネケイソウ属	<i>Navicula gregaria</i>	●	●	●	●	●	●
68		フネケイソウ属	<i>Navicula minima</i>	●	●	●	●		●
69		フネケイソウ属	<i>Navicula minuscula</i>				●		
70		フネケイソウ属	<i>Navicula mutica var. ventricosa</i>	●					●
71		フネケイソウ属	<i>Navicula pygmaea</i>					●	●
72		フネケイソウ属	<i>Navicula pupula</i>	●		●			
73		フネケイソウ属	<i>Navicula recens</i>	●					●
74		フネケイソウ属	<i>Navicula saprophila</i>	●			●		
75		フネケイソウ属	<i>Navicula subminuscula</i>	●		●	●		
76		フネケイソウ属	<i>Navicula symmetrica</i>	●	●		●		
77		フネケイソウ属	<i>Navicula tenelloides</i>	●					
78		フネケイソウ属	<i>Navicula tripunctata</i>			●	●		
79		フネケイソウ属	<i>Navicula trivialis</i>				●		
80		フネケイソウ属	<i>Navicula veneta</i>	●		●	●		●
81		フネケイソウ属	<i>Navicula ventralis</i>	●			●		
82		フネケイソウ属	<i>Navicula viridula var. rostellata</i>	●		●	●		●
83		フネケイソウ属	<i>Navicula viridula var. rostrata</i>	●	●	●	●		●
84		フネケイソウ属	<i>Navicula yuraensis</i>	●		●	●		
85		フネケイソウ属	<i>Navicula spp.</i>	●			●		●
86		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia amphibia</i>	●	●	●	●		●
87		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia clausii</i>	●					
88		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia constricta</i>			●	●		
89		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia dissipata</i>		●	●			●
90		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia filiformis</i>	●			●		
91		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia fonticola</i>	●					
92		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia inconspicua</i>	●	●	●	●	●	●
93		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia linearis</i>		●	●			●
94		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia palea</i>	●	●	●	●		●
95		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia paleacea</i>				●		●
96		ハリケイソウ属	<i>Nitzschia spp.</i>		●	●			●
97		ハネケイソウ属	<i>Pinnularia braunii</i>		●				
98		ハネケイソウ属	<i>Pinnularia sp.</i>	●	●				
99		メガネケイソウ属	<i>Pleurosigma sp.</i>		●	●		●	●
100		プレウロシラ属	<i>Pleurosira laevis</i>	●					
101		マガリクサビケイソウ属	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	●	●	●	●	●	●
102	スケルトネマ属	<i>Skeletonema costatum</i>	●						
103	オオコバンケイソウ属	<i>Surirella angusta</i>	●		●	●			
104	オオコバンケイソウ属	<i>Surirella ovalis</i>				●			
105	ナガケイソウ属	<i>Synedra ulna</i>		●	●	●			
106	ウルナリア属	<i>Ulnaria pseudogailonii</i>	●	●	●	●		●	
107	紅藻綱	ベニトモ属	<i>Audouinella spp.</i>	●	●	●	●	●	
108		オオイシソウ	<i>Compospogon coeruleus</i>	●	●				●
109		タンスイベニマダラ	<i>Hildenbrandia ribularis</i>						●
110	褐藻綱	イズミイシノカワ	<i>Heribaudiella fluviatilis</i>				●	●	
111	緑藻綱	シオグサ属	<i>Cladophora sp.</i>	●	●	●	●	●	●
112		トゲナシツルギ属	<i>Cloniophora sp.</i>	●		●	●		
113		ミカツキモ属	<i>Closterium sp.</i>	●					
114		モノラフィデウム属	<i>Monoraphidium fontinale</i>	●				●	
115		サヤミドロ属	<i>Oedogonium sp.</i>	●		●	●		
116		クンシヨウモ属	<i>Pediastrum sp.</i>	●					
117		ネダシグサ属	<i>Rhizoclonium sp.</i>				●		
118		イカダモ属	<i>Scenedesmus spp.</i>	●	●		●		
119		ヨツメモ属	<i>Tetraspora sp.</i>	●					
120		アオミドロ属	<i>Spirogyra sp.</i>	●			●	●	
121		キヌミドロ属	<i>Stigeoclonium sp.</i>	●					
122		ヒビミドロ属	<i>Ulothrix sp.</i>	●	●		●		
123		スジアオノリ	<i>Uva prolifera</i>	●			●		
124		緑藻綱	緑藻綱	<i>Chlorophyceae gen. sp</i>			●		
125	渦鞭毛藻綱	プロトベリディニウム属	<i>Protoperidinium spp.</i>					●	●
種数				75	44	59	78	24	47
調査地点数				12	4	7	13	2	3

① レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種は3種で、褐藻類1種、紅藻類2種でした。イズミイシノカワは横浜市では初記録です。

表 10 確認されたレッドリスト等掲載種

環境省 RL	分類	種名	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川
絶滅危惧Ⅰ類	褐藻綱	イズミイシノカワ				●		●
絶滅危惧Ⅱ類	紅藻綱	オオイシソウ	●	●		●		●
準絶滅危惧	紅藻綱	タンスイベニマダラ						●
種数			1	1	0	2	0	3

注) レッドリスト等掲載種のカテゴリーは表 17 参照のこと

コラム4 横浜の川の汚濁とハグロトンボ



ハグロトンボ幼虫



ハグロトンボ成虫(雌)



図 ハグロトンボ確認地点

ハグロトンボは、抽水植物や水草の茂る河川の上中流域に生息する、やや大型のトンボです。成虫はその名のとおり翅が黒く、パタパタと音を立てながら優雅に飛び回るので、よく目立ちます。

横浜市内では、河川の水質汚濁がひどくなった40年ほど前から徐々に姿を消しましたが、その後の水質改善に伴い、10年ほど前から再び見られるようになりました(生物相調査では2005年)。

2011年の調査及び参考資料からハグロトンボの確認場所を図に示しました。今回の調査では、41地点中4水系(鶴見川水系、帷子川水系、大岡川水系、境川水系)の18地点で幼虫及び成虫^{注)}が見られました。また、参考資料には宮川水系と侍従川水系での確認も示されています。

ハグロトンボはその一生の中で、水中の植物(卵)、水際の植物帯(幼虫期)、川に近い林間(未成熟の成虫)などを利用し、成熟した成虫は川岸の植物に縄張りを作ります。ハグロトンボがその地域で生息していくためには、河川の水質以外にこのような水辺の環境が必要なのです。

注) 底生動物(表4-1)のトンボ目は幼虫調査が基本ですが、ハグロトンボのみ例外的に成虫が見られた地点も含めています。

参考資料: 花鳥風月編集委員会 編(2007) 花鳥風月のまちづくりーこころと水辺の再生を。中央公論事業出版, 190pp.

〔水質評価〕

調査で確認された生物種から、横浜市の生物指標を用いて水質評価を行いました。「大変きれい」、「きれい」をあわせると、全地点の80%という結果になりました。「汚れている」、「評価できない」の地点は、いずれも感潮域で評価が難しい水域でした。

表 11 水質評価をした地点数

評価	鶴見川	帷子川	大岡川	境川	宮川	侍従川	地点数 (割合)
大変きれい	2	3	4	7	1	2	19 (46%)
きれい	7	1	2	4			14 (34%)
やや汚れている	1			2			3 (7%)
汚れている			1			1	2 (5%)
評価できない	2				1		3 (7%)
調査地点数	12	4	7	13	2	3	41

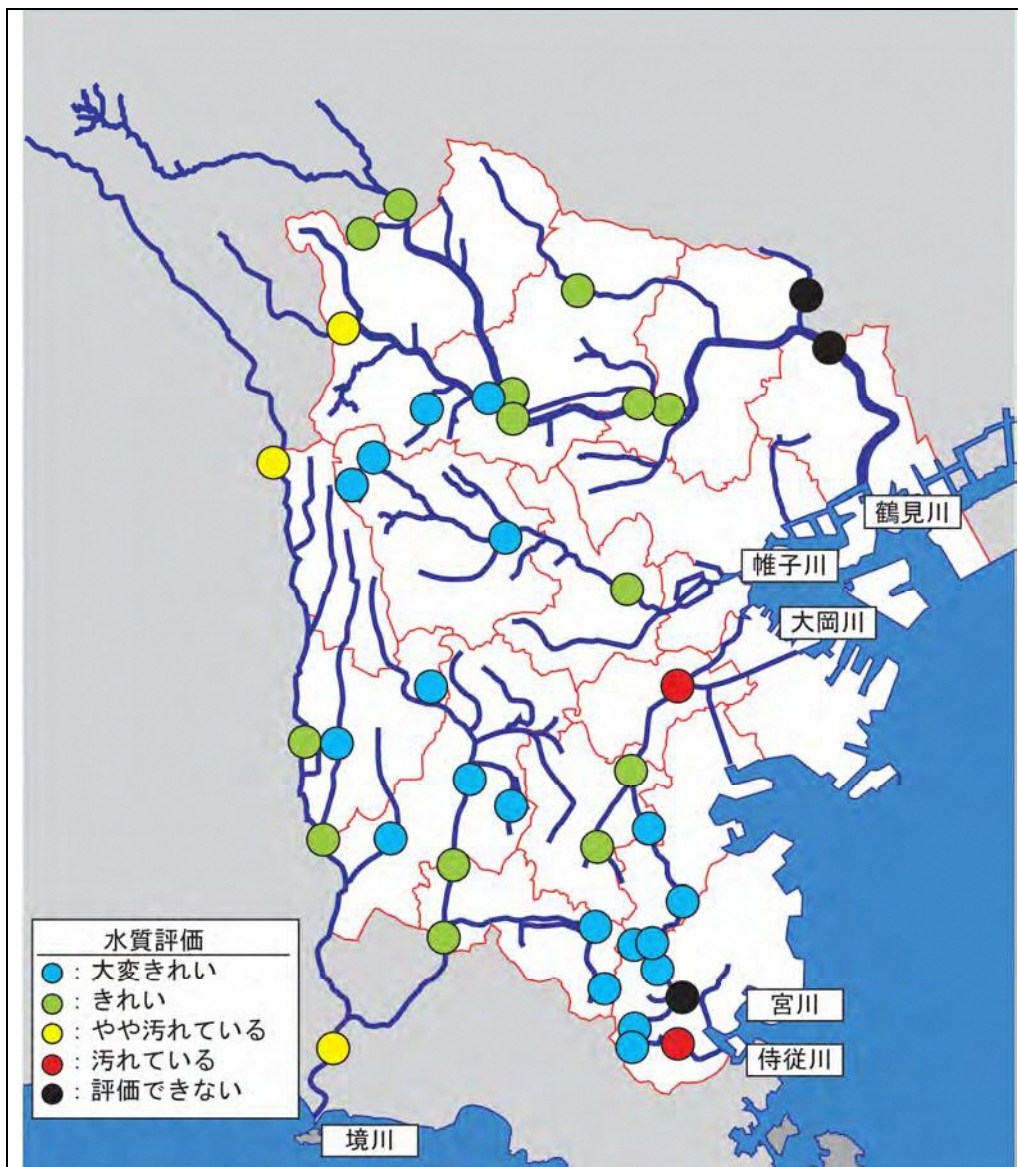


図 2 横浜市内河川の水生物による水質評価結果 (2011年夏)

3. 各水系における調査結果概要

〔鶴見川水系〕

神奈川区を除く青葉区、緑区、都筑区、港北区、鶴見区の12地点で、魚類28種、底生動物99種、水草7種、付着藻類75種が確認されました。

レッドリスト等掲載種は13種が確認されました。このうち魚類はホトケドジョウ、アブラハヤなど9種、底生動物はコヤマトンボなど3種、付着藻類はオオイシソウ1種でした。

外来種は19種が確認されました。魚類は「特定外来生物」のカダヤシの他、初記録である「要注意外来生物」のカラドジョウを含む6種、底生動物はアメリカザリガニなど要注意外来生物3種を含む9種、水草は特定外来生物のオオフサモなど4種でした。

水質評価は「大変きれい」が2地点、「きれい」が7地点、「やや汚れている」が1地点、「評価できない」が2地点でした。



寺家川 山田谷戸



鶴見川 水車橋



鶴見川 末吉橋

〔帷子川水系〕

西区を除く旭区と保土ケ谷区の4地点で、魚類18種、底生動物64種、水草2種、付着藻類44種が確認されました。

レッドリスト等掲載種は8種が確認されました。魚類は、ホトケドジョウ、スミウキゴリなど6種、底生動物はハグロトンボ1種、付着藻類はオオイシソウ1種でした。回遊魚であるゴクラクハゼは、本調査では初めて東京湾に流入する横浜市内の河川で確認されました。

外来種は10種が確認されました。このうち魚類はギバチ1種、底生動物はタイワンシジミなど「要注意外来生物」2種を含む7種、水草は「要注意外来生物」のオオカナダモなど2種でした。ギバチは水質の悪化で一度絶滅したものが、水質の改善で生息可能となった後に放流されたものと考えられます。

水質評価は「大変きれい」が3地点、「きれい」が1地点でした。



帷子川 大貫橋上流



帷子川 鶴舞橋



帷子川 横浜新道下

〔大岡川水系〕

中区を除く磯子区、港南区、南区の7地点で、魚類18種、底生動物85種、水草4種、付着藻類59種が確認されました。

レッドリスト等掲載種は12種が確認されました。このうち魚類は、ホトケドジョウ、シマドジョウなど6種、底生動物はコヤマトンボ、コシボソヤンマなど6種でした。

外来種は17種が確認されました。このうち魚類は「要注意外来生物」のグッピーや、国内他地域からの移入種であるタカハヤなど3種、底生動物はタイワンシジミなど5種の「要注意外来生物」を含む12種、水草は「要注意外来生物」のコカナダモなど2種が確認されました。

水質評価は「大変きれい」が4地点、「きれい」が2地点、「汚れている」が1地点でした。



大岡川 氷取沢



大岡川 曲田橋



大岡川 井土ヶ谷橋

〔境川水系〕

港南区を除く瀬谷区、泉区、栄区、戸塚区の13地点で、魚類37種、底生動物99種、水草4種、付着藻類78種が確認されました。

レッドリスト等掲載種は20種が確認されました。このうち魚類はホトケドジョウ、カワアナゴなど12種が確認され、他水系に比べて回遊性の種類が多く確認されました。そのほか底生動物はコヤマトンボなど6種、付着藻類はイズミイシノカワ、オオイシソウなど2種が確認されました。

外来種は18種が確認されました。このうち魚類は「特定外来生物」のカダヤシ、「要注意外来種」のグッピーなど8種、底生動物は「要注意外来生物」のタイワンシジミ、アメリカザリガニ2種を含む8種、水草は「要注意外来生物」のオオカナダモなど2種が確認されました。

水質評価は「大変きれい」が7地点、「きれい」が4地点、「やや汚れている」が2地点でした。



境川 稲荷川



和泉川 地藏原の水辺



柏尾川 鷹匠橋

〔 宮川水系 〕

金沢区を流れる宮川水系の2地点で、魚類8種、底生動物48種、水草1種、付着藻類24種が確認されました。

レッドリスト等掲載種は3種が確認されました。このうち魚類はメダカ1種ですが、放流由来の個体を含む可能性があります。底生動物はヤマサナエなど2種でした。

外来種は底生動物と水草の9種が確認されました。底生動物はタテジマフジツボ、チチュウカイミドリガニなどの「要注意外来生物」4種を含む8種、水草は「要注意外来生物」のオランダガラシ（クレソン）1種でした。

水質評価は「大変きれい」が1地点、「評価できない」が1地点でした。「評価できない」とされた地点は、感潮域のために評価が難しい水域でした。



宮川 清水橋上流



宮川 桜橋

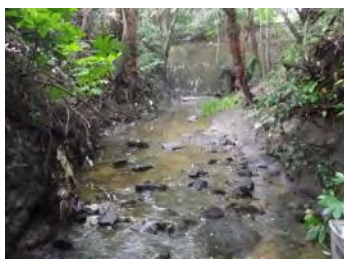
〔 侍従川水系 〕

金沢区を流れる侍従川水系の3地点で、魚類6種、底生動物56種、付着藻類47種が確認されましたが、水草は確認されませんでした。

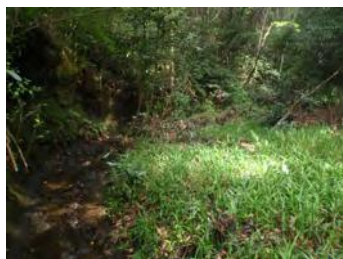
レッドリスト等掲載種は6種が確認されました。このうち魚類は、ニホンウナギとスミウキゴリの2種、底生動物はミルンヤンマ1種、付着藻類はタンスイベニマダラなど3種でした。

外来種は、底生動物の5種が確認されました。汽水生のコウロエンカワヒバリガイやタテジマフジツボなど「要注意外来生物」3種と、指定等のないサカマキガイなど2種です。

水質評価は「大変きれい」が2地点、「汚れている」が1地点でした。「汚れている」とされた地点は、感潮域のために評価が難しい水域でした。



侍従川 金の橋上流



侍従川 金の橋（左）



侍従川 六浦二号橋

4. 各区における結果

横浜市 18 区のうち、調査を行った 15 の区において、確認された水生生物と水質をまとめました。区の並びは五十音順とし、2つの区にまたがる調査地点は両方の区のデータとしました。

4.1 区別集計結果

各調査項目について、区別の結果を集計しました。

[魚類]

表 12 確認された魚類

No.	種名	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ケ谷区	緑区	南区
1	ニホンウナギ			●		●			●				●			
2	コイ	●	●	●				●	●	●	●		●	●	●	
3	イロゴイ	●					●	●	●		●				●	
4	ギンブナ		●						●		●		●		●	
5	オイカワ	●	●	●	●		●	●	●	●			●	●	●	
6	カワムツ												●			
7	アブラハヤ	●		●	●		●		●				●		●	
8	タカハヤ				●											
-	アブラハヤ属 1)				●											
9	マルタ							●			●					
10	モツゴ	●	●	●					●		●		●		●	
11	タモロコ			●							●		●		●	
12	カマツカ							●			●				●	
13	ドジョウ	●	●	●	●	●	●		●		●		●		●	
14	カラドジョウ	●														
15	シマドジョウ				●		●								●	
16	ホトケドジョウ		●		●								●		●	
17	ギバチ		●													
18	ナマズ	●								●			●		●	
19	アユ	●	●	●			●	●	●		●		●	●	●	
20	カダヤシ							●	●		●		●		●	
21	グッピー						●		●		●		●		●	
22	メダカ	●				●		●	●		●		●	●	●	●
23	ヒメダカ												●			
24	マゴチ															
25	スズキ							●			●	●				●
26	コトヒキ					●		●			●	●				
27	シマイサキ															
28	ブルーギル	●														
29	オオクチバス								●							
30	ギンガメアジ															
31	クロダイ															
32	ボラ					●	●	●	●		●	●	●	●		
33	カワアナゴ								●				●			
34	チチブモドキ												●			
35	ボウズハゼ												●			
36	スミウキゴリ					●	●	●	●		●		●	●		
37	ウキゴリ						●						●	●		
38	ニクハゼ															●
39	ビリンゴ					●		●						●		
40	マハゼ					●		●			●	●	●	●		●
41	アシロハゼ															
42	アベハゼ					●		●			●					
43	ゴクラクハゼ								●				●	●		
44	シマヨシノボリ			●			●		●				●	●		
45	オオヨシノボリ			●					●				●	●		
46	トウヨシノボリ 2)	●	●	●				●			●		●			
47	カワヨシノボリ	●									●				●	
48	ヌマチチブ						●	●	●		●		●	●		●
49	チチブ					●										
50	クサフグ					●										
種数		13	9	11	6	11	12	17	20	3	20	5	26	12	16	5
調査地点数		3	3	3	3	5	3	3	4	1	4	1	5	1	4	1

1) 大岡川に生息するアブラハヤとタカハヤの幼魚は区別が困難なので、アブラハヤ属としています。そのため確認種としてのアブラハヤ属は、種類数に加えていません。

2) トウヨシノボリは、トウヨシノボリ(偽橙色型)です。

[底生動物]

表 13-1 確認された底生動物

No.	種名	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ヶ谷区	緑区	南区
1	タンスイカイメン科								●				●			
2	マミズヒモムシ科						●									●
3	ナミウスムシ				●	●			●				●			
4	アメリカツノウズムシ	●	●	●	●		●	●				●	●	●	●	
5	アメリカナミウスムシ							●				●			●	
6	エビヤドリツノムシ							●							●	
7	イシマキガイ					●										
8	ヒメタニシ	●														
9	ホソウミニナ					●										
10	カワニナ	●	●		●	●	●		●				●		●	
11	ウミゴマツボ					●										
12	コモチカワツボ				●	●										
13	ウスイロオカチグサ						●									
14	カワコザラガイ										●				●	
15	ヒメモノアラガイ	●				●	●					●	●	●	●	
16	モノアラガイ科	●	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●	
17	サカマキガイ	●		●	●	●	●		●			●	●	●	●	
18	インドヒラマキガイ								●				●			
19	コウロエンカワヒバリガイ					●										●
20	マガキ					●										
21	イガイダマシ											●				●
22	タイワンシジミ	●	●	●			●		●		●	●	●	●	●	
23	ヤマトシジミ											●				
24	シジミ属(若齢)			●	●							●				
25	マメシジミ属				●	●			●		●				●	
26	ヤマトカワコカイ					●						●				●
27	イトゴカイ					●						●				●
28	エラミミズ	●	●													
29	ミズミミズ亜科	●	●	●			●	●	●		●		●	●	●	
30	イトミミズ亜科	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●
31	ミミズ細	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●
32	ハバヒロビル										●					
33	ヌマビル				●			●			●				●	
34	シマイシビル	●	●	●	●		●	●			●		●	●	●	
35	ピロウドシビル	●	●	●	●		●	●	●		●		●	●	●	
36	ウマビル			●												
37	タテジマフジツボ					●										●
38	アメリカフジツボ					●										●
39	キスイタナイス					●						●				
40	イソコツブムシ属															
41	ミスムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
42	ドロクダムシ属					●										
43	フロリダマミズヨコエビ	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	
44	メリタヨコエビ属					●						●				
45	ヤマトヌマエビ									●						
46	トゲナシヌマエビ					●										
47	ミゾレヌマエビ					●		●	●				●	●		
48	カワリヌマエビ属	●	●			●		●	●	●	●	●	●	●	●	
49	ヌマエビ					●										
50	ヌカエビ		●		●	●	●		●						●	
51	ミナミテナガエビ								●				●			
52	ヒラテナガエビ			●		●						●	●	●		
53	テナガエビ							●	●		●	●	●	●		●
54	ユビナガシエビ					●						●				
55	スジエビ	●		●								●	●	●	●	
56	スジエビモドキ															
57	アメリカザリガニ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
58	チチュウカイミドリガニ					●										
59	クロベンケイガニ					●		●				●				●
60	モクスガニ	●		●		●		●	●		●	●	●	●	●	
61	サワガニ			●	●	●			●			●	●	●	●	
62	ミツオミジカオフタバコカゲロウ			●				●	●	●	●	●	●	●	●	
63	ヨシノコカゲロウ				●								●	●	●	
64	サホコカゲロウ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
65	フタモンコカゲロウ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
66	シロハラコカゲロウ		●		●	●	●					●	●	●	●	
67	Jコカゲロウ			●												
68	フタバカゲロウ属	●						●	●	●	●	●	●	●	●	
69	ウスイロフトヒゲコカゲロウ	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	
70	Dコカゲロウ								●				●			
71	ヒメウスバコカゲロウ属				●		●			●						
72	ウデマガリコカゲロウ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
73	シロタニガワカゲロウ			●					●						●	
74	ウェストントビロカゲロウ					●										
75	フタスジモンカゲロウ				●	●			●							
76	ヒメシロカゲロウ属				●				●							
77	クロイトトンボ属						●		●				●			
78	アジアイトトンボ								●		●		●		●	
79	アオモンイトトンボ							●			●		●		●	
80	ハグロトンボ		●	●	●		●	●	●		●		●		●	
81	アサヒナカワトンボ				●	●							●		●	
82	ヤマサナエ				●	●	●		●				●		●	
83	ダビドサナエ				●	●										
84	コオニヤンマ	●			●		●	●					●			
85	クロスジギヤンマ	●									●		●		●	

表 13-2 確認された底生動物

No.	種名	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ヶ谷区	緑区	南区
86	ギンヤンマ								●				●		●	
87	コシボソヤンマ				●		●						●			
88	ミルンヤンマ				●	●			●							
89	オニヤンマ		●		●	●			●				●		●	
90	コヤマトンボ				●		●		●		●					
91	シオカラトンボ						●	●					●		●	
92	オオシオカラトンボ						●						●			
93	コシアキトンボ												●			
94	フサオナシカワゲラ属				●	●			●							
95	オナシカワゲラ属		●		●	●							●		●	
96	ヤマトフタツメカワゲラ				●	●										
97	ヒメイトアメンボ				●											
98	オオアメンボ				●				●							
99	アメンボ	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●
100	コセアカアメンボ				●	●										
101	シマアメンボ		●		●	●			●				●		●	
102	タイコウチ	●														
103	コマツモムシ											●			●	
104	コムシムシ属							●			●				●	
105	センブリ属					●										
106	ヤマトクロスジヘビトンボ		●		●	●	●		●				●			
107	ヘビトンボ				●				●							
108	コタニガワトビケラ属					●										
109	コガタシマトビケラ	●	●	●				●	●	●			●		●	
110	ナミコガタシマトビケラ				●	●		●	●				●		●	
111	ウルマーシマトビケラ		●		●	●	●						●	●	●	●
112	クダトビケラ属		●		●			●		●				●	●	●
113	ヒメトビケラ属	●	●	●			●	●	●		●				●	●
114	カクツツトビケラ属				●	●									●	●
115	ニンギョウトビケラ			●												
116	アオヒゲナガトビケラ属	●					●				●			●	●	
117	グマガトビケラ属					●										
118	ハイイロゲンゴロウ	●														
119	チビゲンゴロウ							●			●					
120	モンキマメゲンゴロウ				●	●									●	
121	シジミガムシ属										●					
122	ガムシ科(幼虫)						●				●					
123	ゲンジボタル(幼虫)	●				●			●				●		●	
124	クシヒゲマルヒラタドトムシ								●							
125	ヒメドトムシ科(幼虫)					●										
126	ヒメガガンボ属		●			●					●		●		●	
127	Dicranota属					●										
128	ヒゲナガガガンボ属					●			●							
129	Limnophila属					●			●							
130	Yamatotipula 亜属		●	●	●	●	●		●						●	●
131	ガガンボ属					●			●				●		●	
132	ガガンボ科		●			●										
133	ホソカ属					●										
134	カ科															●
135	チョウバエ属						●			●						
136	オオケチョウバエ属						●									
137	ブユ属		●													
138	Bezzia属					●										
139	ボカシヌムスリカ属		●						●							
140	コヒメユスリカ属					●										
141	カユスリカ属													●		
142	カスリモンユスリカ属										●				●	●
143	ヤマトヒメユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
144	ケブカエリユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
145	ハダカエリユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
146	ツヤユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
147	テンマクエリユスリカ属					●		●								
148	エラノリユスリカ属					●										
149	キリカキケバネエリユスリカ属					●	●									
150	エリユスリカ属							●			●		●		●	
151	ニセナガレツヤユスリカ属		●	●			●	●			●		●		●	●
152	ニセケバネエリユスリカ属		●			●	●	●	●				●		●	●
153	クロツヤエリユスリカ属		●													
154	ナガレツヤユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
155	ピロウドエリユスリカ属		●													
156	ヌカユスリカ属	●	●					●						●		
157	セスジユスリカ	●	●			●					●		●		●	●
158	ユスリカ属		●			●			●	●	●	●	●	●	●	●
159	カマガタユスリカ属		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
160	ホソミユスリカ属			●		●		●		●	●	●	●	●	●	●
161	セボリユスリカ属	●	●					●			●		●		●	●
162	ナガスネユスリカ属			●		●										
163	ツヤムネユスリカ属					●										
164	カワリユスリカ属		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
165	ハモンユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
166	ナガレユスリカ属	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
167	ハムグリユスリカ属												●		●	●
168	アシマダラユスリカ属					●		●			●		●		●	●
169	ヒゲユスリカ属	●	●		●		●	●			●		●		●	●
170	ミスアブ科															●
171	アシナガバエ科												●			
種数		44	53	40	63	76	46	48	64	23	59	12	67	38	74	9
調査地点数		3	3	3	3	5	3	3	4	1	4	1	5	1	4	1

[水草]

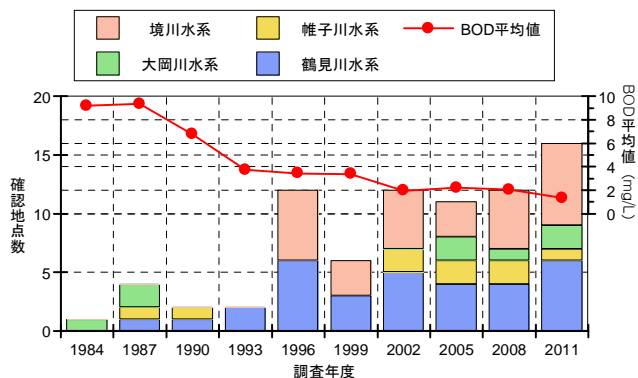
表 14 確認された水草

種名	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ヶ谷区	緑区	南区
オランダガラシ			●	●	●					●			●	●	
オオフサモ	●						●			●				●	
ホザキノフサモ							●	●							
オオカナダモ		●					●			●		●		●	
コカナダモ						●	●								
エビモ						●									
ヤナギモ							●			●				●	
アイノコイトモ						●						●		●	
種数	1	1	1	1	1	3	5	1	0	4	0	2	1	5	0
調査地点数	3	3	3	3	5	3	3	4	1	4	1	5	1	4	1

コラム5 水環境とビロウドランソウ



写真 ビロウドランソウ
(目盛りは10μm)



糸状藍藻のビロウドランソウ *Homoeothrix janthina* は、春から秋にかけて日本の多くの河川において優占的に石面に出現します。今回調査した41地点について、1984年度から2011年度までの夏季調査におけるBOD平均値とビロウドランソウの確認地点数を図に示しました。

ビロウドランソウは1993年まで、鶴見川水系、帷子川水系、大岡川水系で散発的に出現していました。その後、1996年には鶴見川水系と境川水系の各6地点で見られるようになり、2005年度以降は鶴見川水系、帷子川水系、大岡川水系、境川水系において多地点から連続して確認され、急激な変化が認められました。今回の調査では7地点で優占種となっています。

ビロウドランソウは汚濁の進んだ水域には出現しません。出現地点数の増加については、1993年度以降の水質改善が大きく寄与した事が考えられます。また、近年源流域などの水田や谷戸が減少して、河川への泥の供給が減っているため、中・下流域の河床にある石礫の露出が進み、堅い基質を好むビロウドランソウが生育しやすい河床に変化したとも考えられます。

近年になってビロウドランソウはアユの餌として重要であるという研究成果が公表され、河川管理上でも注目されている藻類です。横浜市内の河川でもアユの遡上が確認されるようになってきましたので、目が離せない藻類とも言えるでしょう。

[付着藻類]

表 15-1 確認された付着藻類

No.	綱名	属名・和名	学名	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ヶ谷区	緑区	南区	
1	藍藻綱	コンボウランソウ属	<i>Chamaesiphon</i> sp.							●						●	●		
2		エントフィザリス属	<i>Entophysalis</i> sp.								●						●	●	
3		ピロウドランソウ	<i>Homoeothrix janthina</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	
4		ピロウドランソウ属	<i>Homoeothrix</i> sp.		●														
5		リングピア属	<i>Lyngbya</i> sp.						●										●
6		ユレモ属	<i>Oscillatoria</i> sp.							●									
7		サヤユレモ属	<i>Phormidium</i> sp.		●		●				●	●		●	●	●		●	●
8		クセノコックス属	<i>Xenococcus</i> sp.							●									
9	珪藻綱	マガリケイソウ属	<i>Achnanthes delicatula</i>						●					●					
10		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes exigua</i>							●	●	●	●		●				
11		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes japonica</i>		●	●					●						●		
12		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes kuwaitensis</i>		●	●	●		●										
13		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes lanceolata</i>		●	●	●		●		●	●	●	●		●	●	●	
14		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes minutissima</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
15		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes subhudsonis</i>		●														
16		マガリケイソウ属	<i>Achnanthes</i> sp.				●	●	●										
17	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora coffeaeformis</i>			●			●			●			●	●			●	
18	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora fontinalis</i>						●											
19	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora libyca</i>			●											●			
20	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora montana</i>		●	●		●		●	●			●				●		
21	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora pediculus</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●			
22	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora strigosa</i>		●	●			●		●				●	●			●	
23	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora veneta</i>							●						●				
24	ニセクチビルケイソウ属	<i>Amphora</i> spp.																●	
25	アウラコセイラ属	<i>Aulacoseira ambigua</i>		●						●									
26	イカダケイソウ属	<i>Bacillaria paradoxa</i>							●									●	
27	スジフネケイソウ属	<i>Caloneis bacillum</i>								●									
28	コバンケイソウ属	<i>Cocconeis pediculus</i>				●	●						●				●		
29	コバンケイソウ属	<i>Cocconeis placentula</i> var.		●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●		
30	コバンケイソウ属	<i>Cocconeis scutellum</i>																	
31	コアミケイソウ属	<i>Coccinodiscus</i> spp.						●								●			
32	ヒメマルケイソウ属	<i>Cyclotella meneghiniana</i>							●	●									
33	ヒメマルケイソウ属	<i>Cyclotella</i> spp.						●		●								●	
34	クチビルケイソウ属	<i>Cymbella minuta</i>														●			
35	クチビルケイソウ属	<i>Cymbella prostrata</i>															●		
36	クチビルケイソウ属	<i>Cymbella sinuata</i>		●			●		●		●				●		●		
37	クチビルケイソウ属	<i>Cymbella turgidula</i>				●									●				
38	ナカケイソウ属	<i>Diploneis</i> sp.				●		●											
39	エントモネイス属	<i>Entomoneis paludosa</i>				●													
40	クシケイソウ属	<i>Eunotia minor</i>		●															
41	クシケイソウ属	<i>Eunotia</i> sp.		●															
42	オビケイソウ属	<i>Fragilaria capucina</i>		●															
43	オビケイソウ属	<i>Fragilaria crotonensis</i>		●															
44	オビケイソウ属	<i>Fragilaria fasciculata</i>		●	●	●	●	●	●									●	
45	オビケイソウ属	<i>Fragilaria pinnata</i>									●								
46	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema angustatum</i>					●												
47	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema angustum</i>		●			●	●	●	●							●		
48	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema clevei</i>		●												●			
49	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema minutum</i>							●										
50	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema parvulum</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
51	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema parvulum</i> var.				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
52	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema pseudoaugur</i>										●						●	
53	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema truncatum</i>							●										
54	クサビケイソウ属	<i>Gomphonema</i> spp.		●									●		●				
55	ニセメダケイソウ属	<i>Gyrosigma</i> sp.																	
56	ヒドロセラ属	<i>Hydrosera triquetra</i>								●				●				●	
57	チャツツケイソウ属	<i>Melosira nummuloides</i>							●									●	
58	チャツツケイソウ属	<i>Melosira varians</i>				●	●	●	●	●	●				●		●		
59	フネケイソウ属	<i>Navicula atomus</i>				●				●				●					
60	フネケイソウ属	<i>Navicula cincta</i>				●									●				
61	フネケイソウ属	<i>Navicula confervacea</i>								●								●	
62	フネケイソウ属	<i>Navicula cryptocephala</i>		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
63	フネケイソウ属	<i>Navicula cryptotenella</i>		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
64	フネケイソウ属	<i>Navicula decussis</i>				●													
65	フネケイソウ属	<i>Navicula aff. cancellata</i>						●											
66	フネケイソウ属	<i>Navicula goeppertiana</i>					●			●				●	●	●	●		
67	フネケイソウ属	<i>Navicula gregaria</i>			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
68	フネケイソウ属	<i>Navicula minima</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
69	フネケイソウ属	<i>Navicula minuscula</i>				●													
70	フネケイソウ属	<i>Navicula mutica</i> var. <i>ventricosa</i>						●		●									
71	フネケイソウ属	<i>Navicula pygmaea</i>						●											
72	フネケイソウ属	<i>Navicula pupula</i>		●					●										
73	フネケイソウ属	<i>Navicula recens</i>						●						●					
74	フネケイソウ属	<i>Navicula saphrophila</i>				●													
75	フネケイソウ属	<i>Navicula subminuscula</i>				●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		
76	フネケイソウ属	<i>Navicula symmetrica</i>		●	●	●			●						●		●		
77	フネケイソウ属	<i>Navicula tenelloides</i>		●															
78	フネケイソウ属	<i>Navicula tripunctata</i>					●		●		●								
79	フネケイソウ属	<i>Navicula trivialis</i>								●									
80	フネケイソウ属	<i>Navicula veneta</i>		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
81	フネケイソウ属	<i>Navicula ventralis</i>		●															
82	フネケイソウ属	<i>Navicula viridula</i> var. <i>rostellata</i>		●		●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	
83	フネケイソウ属	<i>Navicula viridula</i> var. <i>rostrata</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
84	フネケイソウ属	<i>Navicula yuraensis</i>		●		●	●	●	●						●	●	●	●	
85	フネケイソウ属	<i>Navicula</i> spp.		●				●		●			●		●	●	●	●	

表 15-2 確認された付着藻類

No.	綱名	属名・和名	学名	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ヶ谷区	緑区	南区
86	珪藻綱	ハリケインソウ属	<i>Nitzschia amphibia</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
87		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia clausii</i>							●								
88		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia constricta</i>			●												●
89		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia dissipata</i>		●		●	●	●									
90		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia filiformis</i>			●				●				●	●	●		
91		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia fonticola</i>							●								
92		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia inconspicua</i>	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●		●
93		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia linearis</i>		●		●	●	●									
94		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia palea</i>	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
95		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia paleacea</i>			●		●				●				●		
96		ハリケインソウ属	<i>Nitzschia</i> spp.				●	●										
97		ハネケインソウ属	<i>Pinnularia braunii</i>		●													
98		ハネケインソウ属	<i>Pinnularia</i> sp.		●					●								
99		メガネケインソウ属	<i>Pleurosigma</i> sp.		●				●									●
100	プレウロシラ属	<i>Pleurosira laevis</i>											●				●	
101	マカリクサビケインソウ属	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	●			●	●	●		●				●	●		●	
102	スケルトナマ属	<i>Skeletonema costatum</i>												●				
103	オオコバンケインソウ属	<i>Surirella angusta</i>				●									●		●	
104	オオコバンケインソウ属	<i>Surirella ovalis</i>			●													
105	ナガケインソウ属	<i>Synedra ulna</i>		●				●							●		●	
106	ウルナリア属	<i>Ulnaria pseudogaillonii</i>		●			●	●	●			●			●		●	
107	紅藻綱	ベニイトモ属	<i>Audouinella</i> spp.		●		●	●	●	●	●		●		●		●	
108		オオイシソウ	<i>Compsopogon coeruleus</i>		●	●			●	●			●				●	
109		タンスイベニマダラ	<i>Hildenbrandia ribularis</i>					●										
110	褐藻綱	イズミイシノカワ	<i>Heribaudiella fluviatilis</i>					●			●							
111	緑藻綱	シオグサ属	<i>Cladophora</i> sp.	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
112		トゲナシツルギ属	<i>Cloniophora</i> sp.						●		●			●	●	●		●
113		ミカヅキモ属	<i>Closterium</i> sp.							●				●				●
114		モノラフィデウム属	<i>Monoraphidium fontinale</i>							●	●			●		●		●
115		サヤミドロ属	<i>Oedogonium</i> sp.							●	●			●		●		●
116		クンシヨウモ属	<i>Pediastrum</i> sp.							●								
117		ネダシグサ属	<i>Rhizoclonium</i> sp.							●						●		●
118		イカダモ属	<i>Scenedesmus</i> spp.		●					●				●		●		●
119		ヨツメモ属	<i>Tetraspora</i> sp.											●				●
120		アオミドロ属	<i>Spirogyra</i> sp.					●		●			●		●	●		●
121		キヌミドロ属	<i>Stigeoclonium</i> sp.			●				●	●	●		●		●		●
122		ヒビミドロ属	<i>Ulothrix</i> sp.		●	●												
123		スシアオノリ	<i>Ulva prolifera</i>												●			
124		緑藻綱	Chlorophyceae gen. sp.						●									
125	渦鞭毛藻綱	プロトベリディニウム属	<i>Protoperidinium</i> spp.					●										
種数				24	38	43	28	52	42	46	40	18	47	15	51	15	42	17
調査地点数				3	3	3	3	5	3	3	4	1	4	1	5	1	4	1

[水質評価]

表 16 水質を評価した地点数

評価	青葉区	旭区	泉区	磯子区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区	都筑区	鶴見区	戸塚区	保土ヶ谷区	緑区	南区
大変きれい		3	2	3	3	1		2				3		2	
きれい	2		1			2	2	2		4		2	1	2	
やや汚れている	1								1						
汚れている					1										1
評価できない					1		1				1				
調査地点数	3	3	3	3	5	3	3	4	1	4	1	5	1	4	1

4.2 各区における結果概要

各区で確認された水生生物や水質などの結果の概要を、区別にまとめました。確認されたレッドリスト等掲載種と外来種のカテゴリー等、水質評価については、下記記号で表しました。

〔 レッドリスト等掲載種 〕

環境省の改訂レッドリスト（2007）と神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006（神奈川県 RDB）に掲載されているレッドリスト等掲載種のカテゴリーを下記の記号で表しました。

表 17 レッドリスト等掲載種の記号とカテゴリー

記号		カテゴリー	説明
環境省 RL	神奈川県 RDB		
★★★★★	★★★★★	絶滅危惧 IA 類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
★★★★★	★★★★★	絶滅危惧 IB 類	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
★★★★	★★★★	絶滅危惧 II 類	絶滅の危険が増大している種
★★★	★★★	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種
—	★★	要注意	分布がある程度以上把握されていて、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種
—	★	注目種	種の分布域が県内に固有または分布の限界になっていて、生息環境が脆弱で環境悪化すると絶滅が危惧されるもの
☆	☆	情報不足	評価するだけの情報が不足している種

※ 放流由来の個体を含む可能性がある種については、「※放流？」としています。

〔 外来種 〕

外来種は、国外外来種、国内外来種、品種を含みます。このうち国外外来種は、外来生物法で指定されている「特定外来生物」、環境省でリストアップされている「要注意外来生物」、無指定の種に区別されます。これら外来種について、下記の記号で表しました。また外来種かどうか、まだはっきりしていないものについては、(?)として表記しました。

表 18 外来種の記号とカテゴリー等

記号	カテゴリー等	説明
×××××	国外外来種・特定外来生物	外来生物法により、飼育、栽培、保管及び運搬することが原則禁止
××××	国外外来種・要注意外来生物	法的な規制はないが、生態系に悪影響を及ぼす可能性がある
×××(?)	国外外来種(の可能性)	国外から人為的に持ち込まれた種（持ち込まれた可能性のある種）
××(?)	国内外来種(の可能性)	国内の他地域から持ち込まれた種（持ち込まれた可能性のある種）
×	品種	観賞用等の品種として改良された種

〔 水質評価 〕

各調査地点の水質評価を地図上に表しました。

表 19 水質評価の記号とカテゴリー

記号	水質評価
●	大変きれい
●	きれい
●	やや汚れている
●	汚れている
●	評価できない

青葉区(鶴見川水系)で確認された水生生物



青葉区内の鶴見川水系の3地点で調査。魚類13種、底生動物44種、水草1種、付着藻類24種を確認。

主に純淡水魚が確認された。新たに「要注意外来生物」のカラドジョウを確認。
水質評価は、鶴見川と寺家川は「きれい」、恩田川は「やや汚れている」。



寺家川 山田谷戸



恩田川 堀の内橋



ドジョウ



タイワンシジミ ××××



オオフサモ ×××××



アユ



タイコウチ



ハリケイソウ属 (N. palea)

魚類(レッドリスト等掲載種)	
コイ ※放流?	☆
アブラハヤ	★★★★
ナマズ	★
メダカ ※放流?	★★★★★
(外来種)	
イロゴイ	×
カラドジョウ	××××
ブルーギル	×××××
カワヨシノボリ	××
(その他代表種)	
オイカワ	
モツゴ	
ドジョウ	
アユ	
トウヨシノボリ (偽橙色型)	
計13種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
タイワンシジミ	××××
アメリカザリガニ	××××
アメリカナシ	×××
サカマキガイ	×××
フロリダマシ	×××
モノアラガイ科	×××(?)
カリヌマエビ 属の一種	×××(?)
(その他代表種)	
カワニナ	
ミズムシ (甲殻類)	
スジエビ	
モクズガニ	
サホコカゲロウ	
コオニヤンマ	
タイコウチ	
コガタシマトビケラ	
セスジユスリカ	
計44種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オオフサモ	×××××
(その他代表種)	
—	
計1種	

付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
—	
(その他代表種)	
マガリケイソウ属	(A. lanceolata)
ハリケイソウ属	(N. palea)
サヤユレモ属	(Phormidium sp.)
計24種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

旭区(帷子川水系)で確認された水生生物



旭区内の帷子川水系3地点で調査。魚類9種、底生動物53種、水草1種、付着藻類38種を確認。
 源流域では、ホトケドジョウが多数みられた。新たにギバチが確認されたが、放流個体由来であると考えられる。回遊魚のアユやトウヨシノボリ(偽橙色型)がみられた。
 水質評価は、3地点とも「大変きれい」。



帷子川 大貫橋上流



帷子川 鶴舞橋



ホトケドジョウ ★★★★★★★★★★



アメリカザリガニ ××××



オオカナダモ ××××



ギバチ ★★★★★★★★★★××



ウデマガリコカゲロウ



オオイスソウ ★★★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)	
コイ ※放流?	☆
ホトケドジョウ	★★★★★★
ギバチ	★★★★★
	★★★★★★
(外来種)	
ギバチ	××
(その他代表種)	
ギンブナ	
オイカワ	
モツゴ	
ドジョウ	
アユ	
トウヨシノボリ (偽橙色型)	
計	9種

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
(外来種)	
タイワンシジミ	××××
アメリカザリガニ	××××
アメリカツノムシ	×××
フロリダマシヨコエビ	×××
モノアラガイ科	×××(?)
カリヌマエビ属の一種	×××(?)
(その他代表種)	
カワニナ	
ミズムシ (甲殻類)	
ヌカエビ	
サホコカゲロウ	
ウデマガリコカゲロウ	
オニヤンマ	
コガタシマトビケラ	
セスジユスリカ	
カワリユスリカ属	
計	53種

水草(レッドリスト等掲載種)	
	—
(外来種)	
オオカナダモ	××××
(その他代表種)	
	—
計	1種
付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
オオイスソウ	★★★★★
(その他代表種)	
クサビケイソウ属 (<i>G. parvulum</i>)	
ハリケイソウ属 (<i>N. amphibia</i>)	
ハリケイソウ属 (<i>N. palea</i>)	
計	38種

(調査実施:平成23年7~9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

泉区(境川水系)で確認された水生生物



泉区内の境川水系3地点で調査。魚類11種、底生動物40種、水草1種、付着藻類43種を確認。
純淡水魚のアブラハヤなどのほか、回遊魚のニホンウナギ、アユ、オオヨシノボリなどが確認された。

水質評価は、境川高鎌橋が「きれい」、他2地点は「大変きれい」。



和泉川 地蔵原の水辺



境川 高鎌橋



アブラハヤ ★★★



ヒラテテナガエビ



オランダガラシ ××××



シマヨシノボリ



シロタニガワカゲロウ



オオイシソウ ★★★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)	
ニホンウナギ	☆
コイ ※放流?	☆
アブラハヤ	★★★★
オオヨシノボリ	★★★★
(外来種)	
タモロコ	××
(その他代表種)	
オイカワ	
モツゴ	
ドジョウ	
アユ	
シマヨシノボリ	
トウヨシノボリ (偽橙色型)	
計11種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
(外来種)	
アメリカツノズムシ	×××
サカマキガイ	×××
タイワンシジミ	××××
フロリダマシヨコエビ	×××
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
シジミ属 (若齢)	
ヒラテテナガエビ	
スジエビ	
モクズガニ	
サワガニ	
ミツオミジカオフトバコカゲロウ	
シロタニガワカゲロウ	
ハモンユスリカ属	
計40種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オランダガラシ	××××
(その他代表種)	
—	
計1種	

付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
オオイシソウ	★★★★★
(その他代表種)	
サヤユレモ属 (<i>Phormidium</i> sp.)	
クサビケイソウ属 (<i>G. parvulum</i>)	
フネケイソウ属 (<i>N. viridula</i> var. <i>rostellata</i>)	
計43種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

磯子区(大岡川水系)で確認された水生生物



磯子区内の大岡川水系(源上流) 3地点で調査。魚類6種、底生動物63種、水草1種、付着藻類28種を確認。
 レッドリスト等掲載種のタカハヤは、本来大岡川には分布しない国内外来種である。純淡水魚のみで、回遊魚は確認されなかった。
 水質評価は、3地点とも「大変きれい」。



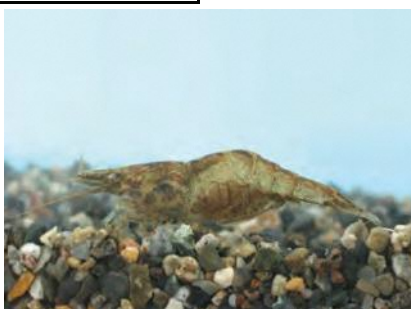
大岡川 水取沢



大岡川 陣屋橋上流



アブラハヤ ★★★



ヌカエビ



オランダガラシ ××××



タカハヤ ★★★★★××



ナミウズムシ



コバンケイソウ属

魚類(レッドリスト等掲載種)	
アブラハヤ	★★★
タカハヤ	★★★★★
シマドジョウ	★★★★
ホトケドジョウ	★★★★★
	★★★★★
(外来種)	
タカハヤ	××
(その他代表種)	
オイカワ	
ドジョウ	
計6種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
ヤマサナエ	★
コシボソヤンマ	★
ミルンヤンマ	★
コヤマトンボ	★★
オオアメンボ	★★
(外来種)	
アメリカツズムシ	×××
コモチカワツボ	×××
モノアラガイ科	×××(?)
サカマキガイ	×××
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
ナミウズムシ	
カワニナ	
ヌカエビ	
サワガニ	
アサヒナカワトンボ	
ダビドサナエ	
計63種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オランダガラシ	××××
(その他代表種)	
—	
計1種	

付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
—	
(その他代表種)	
コバンケイソウ属	
(<i>C.placentula</i> var.)	
フネケイソウ属 (<i>N.tripunctata</i>)	
ベニイトモ属 (<i>Audouinella</i> spp.)	
計28種	
(調査実施:平成23年7~9月)	

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

金沢区(宮川水系・侍従川水系)で確認された水生生物



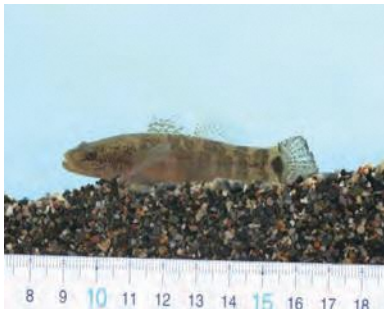
金沢区内の宮川水系2地点、侍従川水系3地点で調査。魚類11種、底生動物76種、水草1種、付着藻類52種を確認。
 回遊魚や汽水に生息する魚類が多く確認された。
 水質評価は、源・上流域の3地点は「大変きれい」。侍従川の感潮域は「汚れている」、宮川の感潮域は「評価できない」。



宮川 清水橋上流



侍従川 六浦二号橋



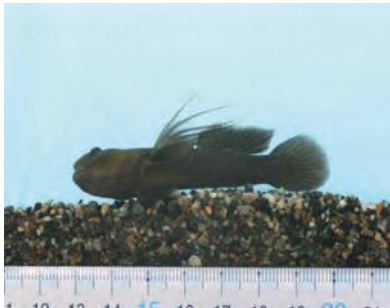
スミウキゴリ ★★★



コモチカワツボ ×××



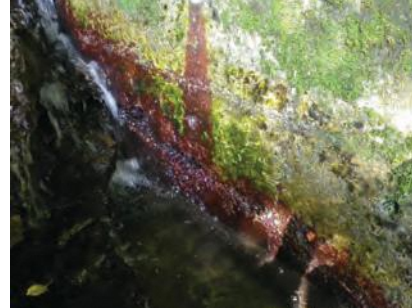
オランダガラシ ××××



チチブ



チュウカイミトカニ ××××



タンスイベニマダラ ★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)
ニホンウナギ ☆
メダカ ※放流? ★★★★★
スミウキゴリ ★★★★★
(外来種)
—
(その他代表種)
ドジョウ
コトヒキ
ボラ
ビリンゴ
マハゼ
アバハゼ
チチブ
クサフグ
計11種

底生動物(レッドリスト等掲載種)
ヤマサナエ ★
ミルシヤンマ ★
(外来種)
コモチカワツボ ×××
サカマキガイ ×××
コウエンカワバカリガイ ××××
タテジマフジツボ ××××
アメリカフジツボ ×××
カリヌマエビ 属の一種 ×××(?)
アメリカザリガニ ××××
チュウカイミトカニ ××××
(その他代表種)
ナミウズムシ
ウミゴマツボ
ヌマエビ
ユビナガスジエビ
クロベンケイガニ
アサヒナカワトンボ
オニヤンマ
計76種

水草(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
オランダガラシ ××××
(その他代表種)
—
計1種
付着藻類(レッドリスト等掲載種)
オオイシソウ ★★★★★
タンスイベニマダラ ★★★★★
イズミイシノカワ ★★★★★
(その他代表種)
コバンケイソウ属 (C. placentula var.)
フネケイソウ属 (N. gregaria)
計52種

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

港南区(大岡川水系)で確認された水生生物



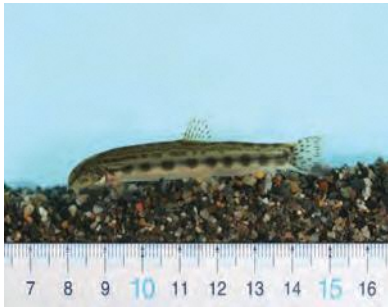
港南区内の大岡川水系3地点で調査。魚類12種、底生動物46種、水草3種、付着藻類42種を確認。
 シマドジョウなどの純淡水魚とアユなどの回遊魚が確認された。そのほか、汽水域に生息するボラが侵入していた。
 水質評価は、大岡川上流は「大変きれい」、日野川と大岡川の下流は「きれい」。



日野川 高橋



大岡川 日野川合流点下



シマドジョウ ★★★



コヤマトンボ ★★



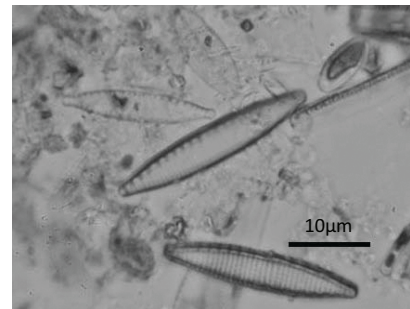
エビモ



アユ



ウスイロオカチグサ ××



ハリケイソウ属 (N. amphibia)

魚類(レッドリスト等掲載種)	
アブラハヤ	★★★
シマドジョウ	★★★
スミウキゴリ	★★★
(外来種)	
イロゴイ	×
グッピー	××××
(その他代表種)	
オイカワ	
ドジョウ	
アユ	
ボラ	
ウキゴリ	
シマヨシノボリ	
スマチチブ	
計12種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
ヤマサナエ	★
コシボソヤンマ	★
コヤマトンボ	★★
(外来種)	
アメリカツノムシ	×××
ウスイロオカチグサ	××
モノアラガイ科	×××(?)
サカマキガイ	×××
タイワンシジミ	××××
フロリダマシヨコエビ	×××
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
カワニナ	
ミズムシ (甲殻類)	
ヌカエビ	
ウデマガリコカゲロウ	
コオニヤンマ	
オオシオカラトンボ	
計46種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
コカナダモ	××××
(その他代表種)	
エビモ	
アイノコイトモ	
計3種	
付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
—	
(その他代表種)	
ハリケイソウ属 (N. amphibia)	
マガリクサビケイソウ属 (R. abbreviata)	
計42種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

港北区(鶴見川水系)で確認された水生生物



港北区内の鶴見川水系3地点で調査。魚類は17種、底生動物は48種、水草は5種、付着藻類46種を確認。オイカワなどの純淡水魚のほか、アユなどの回遊魚、マハゼなどの汽水に生息する魚類が確認された。

水生生物による水質評価は、鶴見川は「きれい」、矢上川は「評価できない」。



鶴見川 亀の甲橋



矢上川 一本橋



アユ



アメリカツノウズムシ ×××



コカナダモ ×××



マハゼ



カリヌマエビ属の一種 ×××(?)



オオイシソウ ★★★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)	
コイ ※放流?	☆
マルタ	★★★★★
カマツカ	★★★★
メダカ ※放流?	★★★★★
スミウキゴリ	★★★★★
(外来種)	
イロゴイ	×
カダヤシ	×××××
(その他代表種)	
オイカワ	
アユ	
スズキ	
コトヒキ	
ボラ	
ビリンゴ	
マハゼ	
アベハゼ	
ヌマチチブ	
計17種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
(外来種)	
アメリカツノウズムシ	×××
アメリカツノウズムシ	×××
フロリダマシヨコエビ	×××
カリヌマエビ属の一種	×××(?)
(その他代表種)	
ミズレヌマエビ	
テナガエビ	
クロベンケイガニ	
モクズガニ	
ウデマガリコカゲロウ	
アオモンイトトンボ	
コオニヤンマ	
シオカラトンボ	
アメンボ	
コガタシマトビケラ	
ハモンユスリカ属	
計48種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オオフサモ	××××
オオカナダモ	×××
コカナダモ	×××
(その他代表種)	
ホザキノフサモ	
ヤナギモ	
計5種	
付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
オオイシソウ	★★★★★
(その他代表種)	
マガリケイソウ属 (<i>A. exigua</i>)	
クサビケイソウ属 (<i>G. parvulum</i>)	
フネケイソウ属 (<i>N. subminuscula</i>)	
計46種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

栄区(境川水系)で確認された水生生物



栄区内の境川水系(源上流～中下流)4地点で調査。魚類20種、底生動物64種、水草1種、付着藻類40種を確認。
 純淡水魚と回遊魚が主に確認されたが、汽水域に生息するボラが侵入していた。
 水質評価は、上流側のいたち川と稲荷川は「大変きれい」、柏尾川の2地点は「きれい」。



稲荷川 杉之木橋上流



柏尾川 鷹匠橋



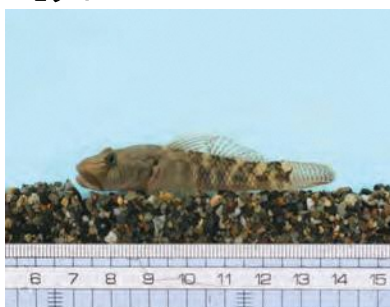
モツゴ



オオアメンボ ★★



ホザキノフサモ



シマヨシノボリ



ハグロトンボ ★



オオイシソウ ★★★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)	
ニホンウナギ	☆
コイ ※放流?	☆
アブラハヤ	★★★★
メダカ ※放流?	★★★★★
カワアナゴ	★★★★★
スミウキゴリ	★★★★
ゴクラクハゼ	★★★★
オオヨシノボリ	★★★★
(外来種)	
イロゴイ	×
カダヤシ	×××××
グッピー	××××
オオクチバス	×××××
(その他代表種)	
モツゴ	
ドジョウ	
アユ	
シマヨシノボリ	
計20種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
ヤマサナエ	★
ミルンヤンマ	★
コヤマトンボ	★★
オオアメンボ	★★
(外来種)	
アメリカナシ	×××
モノアラガイ科	×××(?)
サカマキガイ	×××
タイワンシジミ	××××
フロリダミスヨコエビ	×××
カリスマエビ属の一種	×××(?)
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
ナミウズムシ	
ミズレヌマエビ	
テナガエビ	
サワガニ	
コオニヤンマ	
計64種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
(その他代表種)	
ホザキノフサモ	
計1種	

付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
オオイシソウ	★★★★★
イズミイシノカワ	★★★★★★
(その他代表種)	
ビロウドランソウ (<i>H. janthina</i>)	
ニセクチビルケイソウ属 (<i>A. montana</i>)	
クサビケイソウ属 (<i>G. parvulum</i>)	
計40種	

(調査実施:平成23年7~9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

瀬谷区(境川水系)で確認された水生生物



瀬谷区内の境川水系1地点で調査。魚類3種、底生動物23種、付着藻類18種を確認。
 コイやナマズなどの純淡水魚が確認された。またアユのはみあとが確認された。ただし魚類相としては種数が少ない。
 水質評価は、増水の影響で「やや汚れている」と判定された。



境川 目黒橋



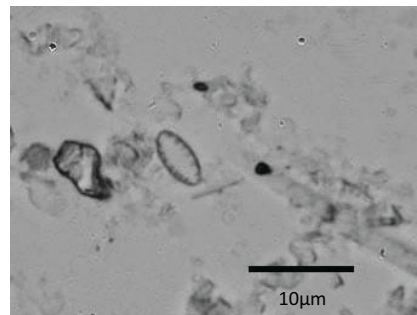
アユのはみあと



コイ ※放流? ☆



ヤマトヌマエビ(右側はカリヌマエビ属)



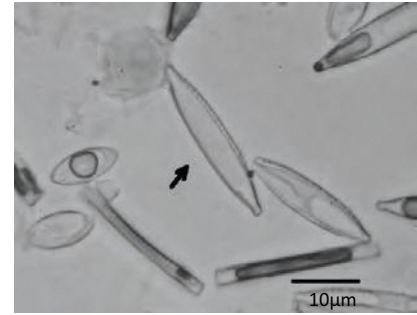
ハリケイトウ属 (N. inconspicua)



ナマズ ★



サホコカゲロウ



ハリケイトウ属 (N. palea)

魚類(レッドリスト等掲載種)
コイ ※放流? ☆
ナマズ ★
(外来種)
—
(その他代表種)
オイカワ
アユ (はみあとを確認)
アユの「はみあと」とは、アユが石の上についた藻類を食べたときにつく痕跡のことです。はみあとがあれば、アユがいることがわかります。
計3種

底生動物(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
フロリダマシヨコエビ ×××
カリヌマエビ属の一種 ×××(?)
(その他代表種)
ヤマトヌマエビ
ミツオミジカオフトバコカゲロウ
サホコカゲロウ
ウデマガリコカゲロウ
コガタシマトビケラ
クダトビケラ属
ハダカエリユスリカ属
ナガレツヤユスリカ属
ハモンユスリカ属
計23種

水草(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
—
(その他代表種)
—
計0種

付着藻類(レッドリスト等掲載種)
—
(その他代表種)
フネケイトウ属 (N. subminuscula)
ハリケイトウ属 (N. inconspicua)
ハリケイトウ属 (N. palea)
計18種
(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

都筑区(鶴見川水系)で確認された水生生物



都筑区内の鶴見川水系4地点で調査。魚類20種、底生動物59種、水草4種、付着藻類47種を確認。
 カマツカなどの純淡水魚とアユなどの回遊魚が主に確認された。そのほか、マハゼなど汽水に生息する魚類が侵入していた。
 水質評価は、4地点とも「きれい」。



早瀬川 境田橋



鶴見川 第三京浜下



カマツカ ★★★



アメリカミズガミ ×××



ヤナギモ



アユ



モクズガニ



オオイシソウ ★★★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)	
コイ ※放流?	☆
マルタ	★★★★★
カマツカ	★★★★
メダカ ※放流?	★★★★★
スミウキゴリ	★★★★★
(外来種)	
イロゴイ	×
タモロコ	××
カダヤシ	×××××
カワヨシノボリ	××
(その他代表種)	
オイカワ	
モツゴ	
ドジョウ	
アユ	
マハゼ	
トウヨシノボリ (偽橙色型)	
ヌマチチブ	
計20種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
コヤマトンボ	★★
(外来種)	
アメリカツノガミ	×××
アメリカミズガミ	×××
モノアラガイ科	×××(?)
タイワンシジミ	××××
フロリダミズヨコエビ	×××
カリヌマエビ 属の一種	×××(?)
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
ミズムシ (甲殻類)	
テナガエビ	
モクズガニ	
ウデマガリコカゲロウ	
アジアイトトンボ	
クロスジギンヤンマ	
コガタシマトビケラ	
セスジユスリカ	
計59種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オランダガラシ	××××
オオフサモ	×××××
オオカナダモ	××××
(その他代表種)	
ヤナギモ	
計4種	

付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
オオイシソウ	★★★★★
(その他代表種)	
クサビケイソウ属 (<i>G. parvulum</i>)	
フネケイソウ属 (<i>N. subminuscula</i>)	
ハリケイソウ属 (<i>N. palea</i>)	
計47種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

鶴見区(鶴見川水系)で確認された水生生物



鶴見区内の鶴見川水系1地点で調査。魚類5種、底生動物12種、付着藻類15種を確認。
スズキなど汽水に生息する魚類が確認された。

水質評価は、「評価できない」。



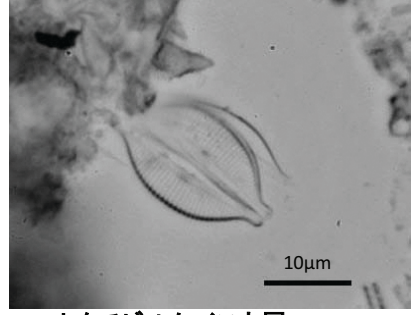
鶴見川 末吉橋



スズキ



イガイダマシ ××××



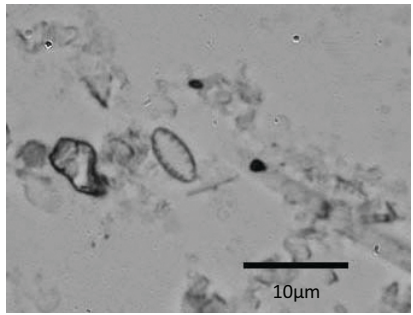
ニセクチビルケイソウ属



アベハゼ



ヤマトカワゴカイ



ハリケイソウ属 (*N. inconspicua*)

魚類(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
—
(その他代表種)
スズキ コトヒキ ボラ マハゼ アベハゼ
計5種

底生動物(レッドリスト等掲載種)
ヤマトシジミ ★★★
(外来種)
イガイダマシ ××××
(その他代表種)
ヤマトシジミ ヤマトカワゴカイ イトゴカイ キスイタナイス メリタヨコエビ属 テナガエビ ユビナガスジエビ クロベンケイガニ モクズガニ アメンボ ホソミユスリカ属
計12種

水草(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
—
(その他代表種)
—
計0種

付着藻類(レッドリスト等掲載種)
—
(その他代表種)
ニセクチビルケイソウ属 (<i>Amphora coffeaeformis</i>) ハリケイソウ属 (<i>N. filiformis</i>) ハリケイソウ属 (<i>N. inconspicua</i>)
計15種
(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

戸塚区(境川水系)で確認された水生生物



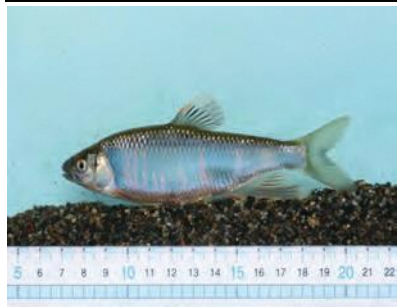
戸塚区内の境川水系5地点で調査。魚類は26種、底生動物67種、水草2種、付着藻類51種を確認。
 源流から中・下流域まで環境が幅広く、多くの魚類が確認された。
 水質評価は、舞岡川、宇田川、柏尾川上流側は「大変きれい」、柏尾川下流側と境川の2地点は「きれい」。



境川 遊水地橋



柏尾川
S水再生センター下流



オイカワ



インドヒラマキガイ ×××



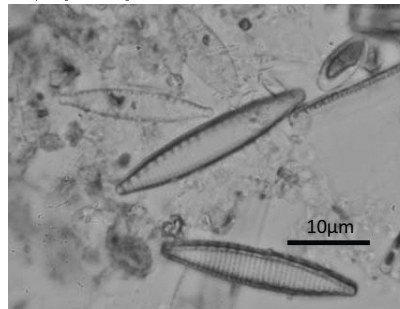
アイノコイトモ



ニホンウナギ ☆



ミナミテナガエビ



ハリケイソウ属 (N. amphibia)

魚類(レッドリスト等掲載種)	
ニホンウナギ	☆
コイ ※放流?	☆
アブラハヤ	★★★★
ホトケドジョウ	★★★★★
ナマズ	★★★★★
メダカ ※放流?	★★★★★
カワアナゴ	★★★★★
ボウズハゼ	★★★★★
スミウキゴリ	★★★★
ゴクラクハゼ	★★★★
オオヨシノボリ	★★★★
(外来種)	
カワムツ	××
タモロコ	××
カダヤシ	×××××
グッピー	××××
ヒメダカ	×
計26種	

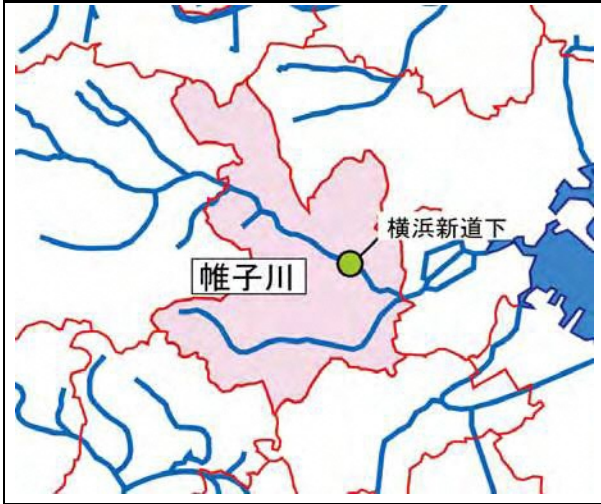
底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
ヤマサナエ	★
コシボソヤンマ	★
(外来種)	
アメリカワズムシ	×××
モノアラガイ科	×××(?)
サカマキガイ	×××
インドヒラマキガイ	×××
タイワンシジミ	××××
フロリダマシヨコエビ	×××
カリスマエビ属の一種	×××(?)
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
ミズレヌマエビ	
テナガエビ	
スジエビ	
アジアイトトンボ	
ギンヤンマ	
シオカラトンボ	
計67種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オオカナダモ	××××
(その他代表種)	
アイノコイトモ	
計2種	
付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
—	
(その他代表種)	
クサビケイソウ属 (G. parvulum)	
ハリケイソウ属 (N. amphibia)	
ハリケイソウ属 (N. palea)	
計51種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

保土ヶ谷区(帷子川水系)で確認された水生生物



保土ヶ谷区内の帷子川水系1地点で調査。魚類12種、底生動物38種、水草1種、付着藻類15種を確
感潮域上端の区域にあたり、主に回遊魚と汽水に
生息する種が確認された。ゴクラクハゼやシマヨシ
ノボリなど、東京湾奥部ではあまり見られない種が
確認された。
水質評価は、「きれい」。



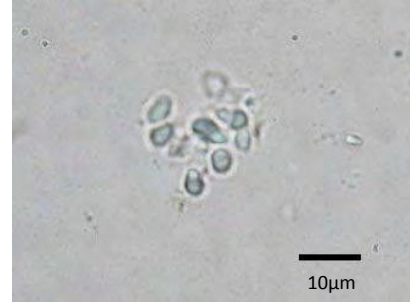
帷子川 横浜新道下



ゴクラクハゼ ★★★



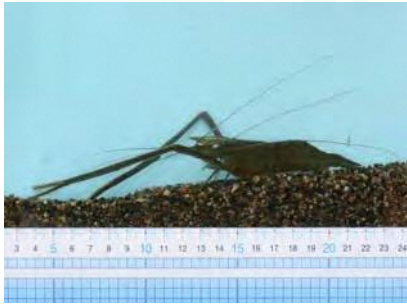
フタモンコカゲロウ



コンボウランソウ属



ボラ



テナガエビ



ピロウドランソウ

魚類(レッドリスト等掲載種)	
コイ ※放流?	☆
メダカ ※放流?	★★★★★
スミウキゴリ	★★★★★
ゴクラクハゼ	★★★★
(外来種)	
-	
(その他代表種)	
オイカワ	
アユ	
ボラ	
ウキゴリ	
ビリンゴ	
マハゼ	
シマヨシノボリ	
ヌマチチブ	
計12種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
-	
(外来種)	
アメリカツノズルムシ	×××
サカマキガイ	×××
フロリダマシヨコエビ	×××
アメリカザリガニ	××××
(その他代表種)	
ミズミミズ亜科	
ミズレヌマエビ	
テナガエビ	
スジエビ	
モクズガニ	
フタモンコカゲロウ	
ウデマガリコカゲロウ	
ナガレツヤユスリカ属	
計38種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
-	
(外来種)	
オランダガラシ	××××
(その他代表種)	
-	
計1種	
付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
-	
(その他代表種)	
コンボウランソウ属	
(<i>Chamaesiphon</i> sp.)	
ピロウドランソウ (<i>H.janthina</i>)	
マガリケイツウ属 (<i>A.minutissima</i>)	
計15種	
(調査実施：平成23年7～9月)	

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

緑区(鶴見川水系)で確認された水生生物



緑区内の鶴見川水系の4地点で調査。魚類16種、底生動物74種、水草5種、付着藻類42種を確認。
主に純淡水魚が確認されたが、回遊魚のアユが遡上していた。

水質評価は、鶴見川の2地点は「きれい」。恩田川、梅田川の2地点は「大変きれい」。



梅田川 神明橋



鶴見川 落合橋



オイカワ



フロリダミズヨコエビ ×××



ヤナギモ



アユ



ギンヤンマ



オオイシソウ ★★★★★

魚類(レッドリスト等掲載種)	
コイ ※放流?	☆
アブラハヤ	★★★★
カマツカ	★★★★
シマドジョウ	★★★★
ホトケドジョウ	★★★★★
ナマズ	★★★★★
メダカ ※放流?	★★★★★
	★★★★★
(外来種)	
イロゴイ	×
タモロコ	×
カダヤシ	×
カワヨシノボリ	×
(その他代表種)	
オイカワ	
モツゴ	
ドジョウ	
アユ	
計16種	

底生動物(レッドリスト等掲載種)	
ハグロトンボ	★
ヤマサナエ	★
(外来種)	
アメリカツノムシ	×
アメリカミズムシ	×
モノアラガイ科	×
サカマキガイ	×
タイワンシジミ	×
フロリダミズヨコエビ	×
カリヌマエビ属の一種	×
アメリカザリガニ	×
(その他代表種)	
シマイシビル	
ミズムシ	
スジエビ	
モクズガニ	
アジアイトトンボ	
ギンヤンマ	
セスジユスリカ	
計74種	

水草(レッドリスト等掲載種)	
—	
(外来種)	
オランダガラシ	×
オオフサモ	×
オオカナダモ	×
(その他代表種)	
ヤナギモ	
アイノコイトモ	
計5種	
付着藻類(レッドリスト等掲載種)	
オオイシソウ	★★★★★
(その他代表種)	
クサビケイソウ属 (<i>G. parvulum</i>)	
ハリケイソウ属 (<i>N. amphibia</i>)	
ハリケイソウ属 (<i>N. palea</i>)	
計42種	

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

南区(大岡川水系)で確認された水生生物



南区内の大岡川水系1地点で調査。魚類5種、底生動物9種、付着藻類17種を確認。
マハゼなど汽水に生息する種が主に確認されたほか、回遊魚のヌマチチブ、上流から流されてきたものと考えられる純淡水魚のメダカが確認された。
水質は「汚れている」。



大岡川 井土ヶ谷橋



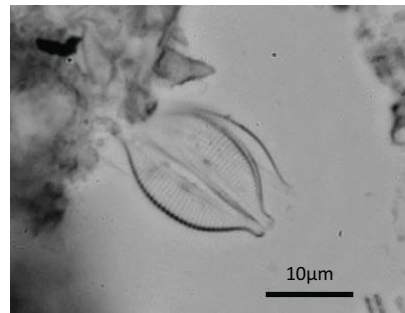
イガイダマシが多数付着



スズキ



イガイダマシ ××××



ニセクチビルケイソウ属



マハゼ



クロベンケイガニ



ヒメマルケイソウ属

魚類(レッドリスト等掲載種)
メダカ ※放流? ★★★★★
★★★★★
(外来種)
—
(その他代表種)
スズキ
ニクハゼ
マハゼ
ヌマチチブ
計5種

底生動物(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
コウエンカワハナリガイ ××××
イガイダマシ ××××
タテジマフジツボ ××××
アメリカフジツボ ×××
(その他代表種)
ヤマトカワゴカイ
イトゴカイ
イトミミズ亜科
テナガエビ
クロベンケイガニ
計9種

水草(レッドリスト等掲載種)
—
(外来種)
—
(その他代表種)
—
計0種

付着藻類(レッドリスト等掲載種)
—
(その他代表種)
ニセクチビルケイソウ属 (<i>Amphora coffeaeformis</i>)
ヒメマルケイソウ属 (<i>Cyclotella</i> spp.)
計17種

(調査実施：平成23年7～9月)

☆★印と×印の凡例は表17(p24)を参照のこと

コラム6 水田とシャジクモ(寺家ふるさと村)



シャジクモの輪生枝



水中のシャジクモ



イネ根元のシャジクモ



寺家ふるさと村の水田

シャジクモ(車軸藻)類は、水田、ため池、湖など、淡水から汽水に生育する大型の藻類です。一見するとスギナのような形をしていますが、水の中に生えています。かつては、水田雑草としても普通に見られる種類でした。日本からは、4属(シャジクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属、フラスコモ属)70種以上が確認されており、その多くが環境省レッドリストに取り上げられています。シャジクモ類がレッドリストで取りあげられたのは、ため池や湖などの透明度が富栄養化によって低下したこと、ソウギョ等による食害や護岸工事などによって日本全国での減少が激しかったからです。

今回、青葉区を流れる寺家川(鶴見川の支川)の山田谷戸を調査した際、近くの水田にシャジクモ類のシャジクモ(*Chara braunii*)が生育していることがわかりました。河川の生物相調査では、水田は対象区域ではないのでシャジクモは調査結果に含めていませんが、環境省のレッドリストでは「絶滅危惧Ⅱ類」の種です。

シャジクモは、シャジクモ類の中でも最も一般的な種で、池や水田によく見られます。横浜市内にどれくらいのシャジクモ類が生息しているか、まだよくわかっていません。近くに田んぼのある方は探してみませんか？

参考資料: 車軸藻の保全をめざして(<http://mcc.nies.go.jp/Chara2006/chara-index.html>)